

# 博 多 90

— 博多遺跡群第129次調査の概要 —

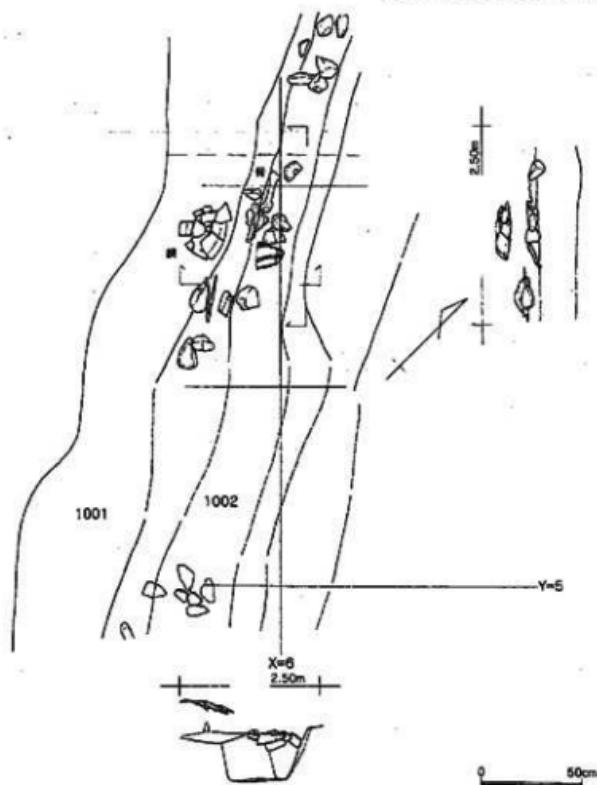
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第761集



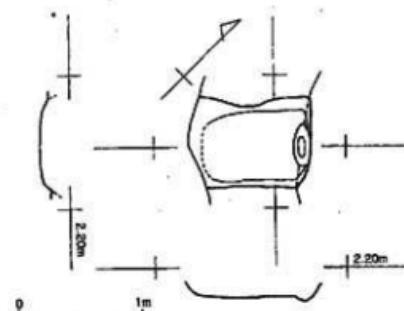
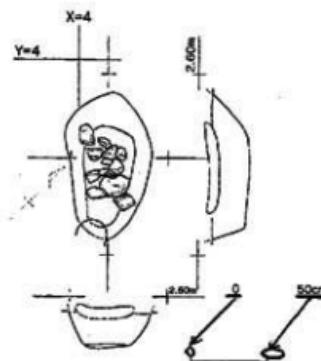
2003

福岡市教育委員会

※ 正誤表 (訂正図)



4 頁 Fig. 7 タイトル写植訂正

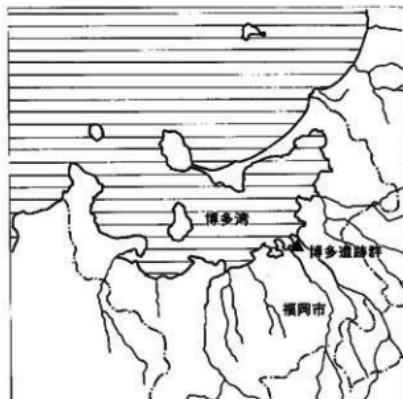


9 頁 Fig. 29 図面縮尺追加

はか  
博 多 90

— 博多遺跡群第129次調査の概要 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第761集



遺跡調査番号 0062  
遺跡略号 HKT-129

2003

福岡市教育委員会

## 序

古くから大陸文化の門戸として栄えてきた「博多」の発掘は、近年の都心部の再開発に伴い、現在まで140次の調査を越え、調査の進展とともに新たな見知が得られています。

本書は、博多区古戸町地区の社屋ビル建設に先だって発掘調査を実施いたしました博多遺跡群第129次調査の概要を報告するものであります。発掘調査地点は、中世都市「博多」の海岸側である「息の濱」に立地し、室町時代に中國・朝鮮からの使節が滞在したことが知られる妙楽寺の故地に近い位置にあります。発掘調査では、「息の濱」が新興の街場として繁栄はじめる12世紀後半以降の街場の跡を検出するとともに、大陸との交易でもたらされた多数の輸入陶磁器が出土しました。また、イルカ等の獸骨類の出土は、当時の都市の食生活を知る上で興味深いものです。これらは、「博多」の歴史と文化の足跡を解明する上で貴重な資料となるものと考えられます。

今後、本書が文化財保護へのご理解と認識を深める一助となり、また研究資料としても活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査費用の負担をはじめとするご協力を賜りました、株式会社 フジカラーサービスおよび関係各位の皆様に対し、心から謝意を表する次第であります。

平成15年3月31日

福岡市教育委員会  
教育長 生田 征生

## 例 言

1. 本書は、福岡市教育委員会が、平成13(2001)年2月1日から同年3月28日まで発掘調査を実施した、社屋ビル建設に伴う博多遺跡群第129次調査の概要の報告書である。

2. 調査で検出した遺構は、その性格に問わらず、遺番号を付した。また露台上、調査区を反転して調査したが、西側をI区、東側をII区としている。いずれも2面の前歯を行ったが、I区第1面の遺構を1001~、I区第2面を2001~、II区第1面を1201~、II区第2面を2201~の各遺構番号を付した(ただし、一部に例外があり、間に欠番がある)。また、戸戸などの深い遺構については、完層を次の裏面の調査に持ち越すことがあったため、同一の遺構で各面ごとに番号を付した場合がある。また遺構の性格を示す記号として、SD(溝)、SE(井戸)、SK(土壇)、を用いた。性格不明遺構・特殊遺構はSXとした。

3. 本書には可能な限り多くの多くの遺物実測図を記載したため、限られた紙面内では個々の遺物の細かな説明ができない。そのため、Tab.1~14の遺物観察表を作成、掲載した。なお、土器・陶磁器類の分類と編年については下記の論文等を参照した。なお中世前期の陶磁器分類は、博多分類を採用し、必要に応じて大字区分を参照している。

森本朝子1984『博多出土七寶易陶磁器分類表』(福岡市高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告書N福岡市埋蔵文化財調査報告書第105集)※博多分類

山本信夫ほか2000『大宰府条坊跡』 XV-南磁器分類編-、太宰府市教育委員会2000 ※大宰府分類

山本信夫1990(『統計上の上層-歴史時代土師器の編年研究によって-』『乙益重蔵先生古碑記念論』)※土師器編-、編年九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会※近世陶磁編

4. 本書に用いる方位は、磁北である。またレベルは埋蔵文化財課が博多遺跡群内に設置した基準点の標高を移設したものである。なお国土地標系を移設しようとした試みが、調査区の周辺においては、以前に埋蔵文化財課が委託設置した博多遺跡群内の国土地標基準点の多くが近年の開発工事で失われてしまったため、互いを見違すことができるものがなく、それを果たすことができなかった。したがって調査区内の座標は任意のものである

5. 本書に使用した遺構実測図の作成は、久住猛雄、阿部泰之、坂口理穂、鍛ヶ江哲二、西脇将夫、山口裕平、野方裕が行った。本書に使用した遺物実測図の作成は、上方高弘、吉田浩之が行った。また拓本は成績直子が行った。本書に使用した図面の製図は、成績、上方、吉田、川端紀子、横山晋綱、久住が行なった。本書に使用した写真の撮影は、遺構写真の一部を同部泰之が行ない、獸骨については星山洋が行なった。他の遺物写真と遺構写真的撮影については久住が行なった。

6. 本書の種類は、上方の協力を得て久住が行った。原稿の執筆は、動物遺存体(第3章)の記述は斎山が行ない、他については久住が行なった。また、遺物観察表の作成は上方が行なった。

7. 本調査に関わる遺物・記録類(図面・写真)は福岡市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・管理される予定である。資料が広く活用されることを望みたい。

## 本文目次

第1章 はじめに .....	1	(1)溝状遺構(SD) .....	11
1. 調査に至る経緯 .....	1	(2)土坑(SK) .....	23
2. 調査の組織 .....	1	(3)井戸(SE) .....	32
3. 調査地点の立地と環境 .....	4	(4)その他の遺構 .....	32
第2章 調査の記録 .....	7	4. 出上遺物 .....	32
1. 調査の経過 .....	7	第3章 博多遺跡群第129次調査出土動物遺存体について .....	34
2. 調査の概要 .....	9	.....	34
3. 検出遺構 .....	11	第4章 おわりに .....	34

## 挿図目次

Fig.1 博多遺跡群第129次調査地点周辺図 .....	1	Fig.27 SX2281 実測図 .....	8
Fig.2 博多129次調査区概要図 .....	2	Fig.28 SK1219 実測図 .....	9
Fig.3 第1面遺構平面図 .....	2	Fig.29 SK2219 実測図 .....	9
Fig.4 第2面遺構平面図 .....	3	Fig.30 SD1001、SD1201(1)出土遺物実測図 .....	10
Fig.5 調査区壁面土層図 .....	3	Fig.31 SD1201(2)、SD1002、SK1005(1)、SD1117 他出土遺物実測図 .....	12
Fig.6 SD1001・1201、SD1117平面図 .....	4	Fig.32 SK1005(2)、SK1008、SK1009、SE2222、 SK1020、SK1101他出土遺物実測図 .....	14
Fig.7 SD1001・1002 上層遺物出土状況 .....	4	Fig.33 SK1034、SK1047、SK1055、SK1067、 SD1131他出土遺物実測図 .....	16
Fig.8 SD1201 北側遺物(獸骨等)出土状況 .....	4	Fig.34 SK1052、SK1066、SD1212、第1面ピット (SP)他出土遺物実測図 .....	18
Fig.9 SD1001・1201土層図、SD1117断面図 .....	5	Fig.35 SK1212、SK1223、SK1210、SK1219、 SK1220、SK1221、SK1228、SK1230 他 出土遺物実測図 .....	20
Fig.10 SK1005A 実測図 .....	5	Fig.36 SX1280、SK1270、SK1259他出土遺物実測図 .....	22
Fig.11 SK1005B 実測図 .....	5	Fig.37 SD1201(3)、SP1213、SK2001、SK2073、 SX2201、SK2216、I・II区第2面遺構出土遺 物実測図 .....	24
Fig.12 SD1034 実測図・土層図 .....	6	Fig.38 各遺構・包含層出土遺物補遺(1) .....	26
Fig.13 SD1240 実測図 .....	6	Fig.39 各遺構・包含層出土遺物補遺(2) .....	28
Fig.14 SE2222 実測図 .....	6	Fig.40 各遺構出土遺物補遺 .....	29
Fig.15 SK1008 実測図 .....	6	Fig.41 各遺構出土遺物補遺(2) .....	30
Fig.16 SK1022 実測図 .....	6	Fig.42 博多129次出土動物遺存体(1) (実測図・写真) .....	32
Fig.17 SK1065・SK1066実測図 .....	7	Fig.43 博多129次出土動物遺存体(2) (写真) .....	33
Fig.18 SK1067・SK1054実測図 .....	7		
Fig.19 SK1001 実測図 .....	7		
Fig.20 SX1280 実測図 .....	7		
Fig.21 SK1214 実測図 .....	7		
Fig.22 SK1210 実測図 .....	7		
Fig.23 SK1230 実測図 .....	7		
Fig.24 SK2216 実測図 .....	8		
Fig.25 SK1221 実測図 .....	8		
Fig.26 SX2201・2202実測図 .....	8		

# 第1章 はじめに

## 1. 調査に至る経緯

平成12(2000)年9月26日、株式会社 フジカラーサービス(東京都調布市)から、博多区古門戸町39番、40番における社屋ビル(株式会社 プロラボクリエイト福岡)建設に伴う埋蔵文化財の事前審査願が福岡市教育委員会埋蔵文化財課に提出された。申請地は、博多遺跡群として周知されている範囲内であり、周辺の調査からも中世を中心とする濃密な遺構の分布が予想された。埋蔵文化財では関係者と協議の上、平成12年11月7日に同地の試掘調査を行った。その結果、申請地は地表下220cmより下に、中世の遺物包含層と遺構が存在することが確認された。この結果を踏まえ、遺跡(埋蔵文化財)の取り扱いについて関係者と協議を行った。予定される社屋ビルの基礎構造は埋蔵文化財を破壊することが不可避であることから、建設工事に先立って、ビル建設部分について記録保存のための発掘調査が必要であるという前提のもと協議が重ねられた。その結果、調査費用負担や調査期間などについて合意に達し、平成12年12月25日に株式会社 フジカラーサービス(委託者)と福岡市(受託者)との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を交わすに至った。

発掘調査は、平成13年2月1日より行ない、同年3月28日まで行なわれた。なお、建設工事においては周囲の土留めとして矢板工事を行なうが、発掘調査においても安全対策上必要であり、建設工事の前倒しとなるが発掘調査に先立つて矢板工事を株式会社 フジカラーサービス側にして頂いている。また排土処理において、地表下150cmまでの表土削除と排土搬出についても発掘調査に先立つて協力して頂いた。さらに調査事務所としては、発掘現場に隣接する当時営業中のプロラボクリエイト福岡ビル(調査現場跡地に現在は移転)のフロアを利用させて頂いた。このような委託者側のご協力のもと、調査は安全かつ迅速に、また効率良く進めることができた。これらの現地における条件整備については、委託者の株式会社 フジカラーサービスの関係各位の方々はもとより、株式会社 プロラボクリエイト福岡の代表取締役 伊藤新一氏をはじめとする社員の方々、ビル建設のゼネコンである清水建設九州支店の担当者の方々のご協力があった。この場を借りて感謝申し上げたい。

なお整理作業は平成14年度に行ない、同年度末に報告書を刊行した。

## 2. 調査の組織

調査における組織は以下の通りである(事前審査と調査年度は平成12年度、整理年度は平成14年度)。

調査委託：株式会社 フジカラーサービス

調査主体：福岡市教育委員会  
教育長 牛田征生

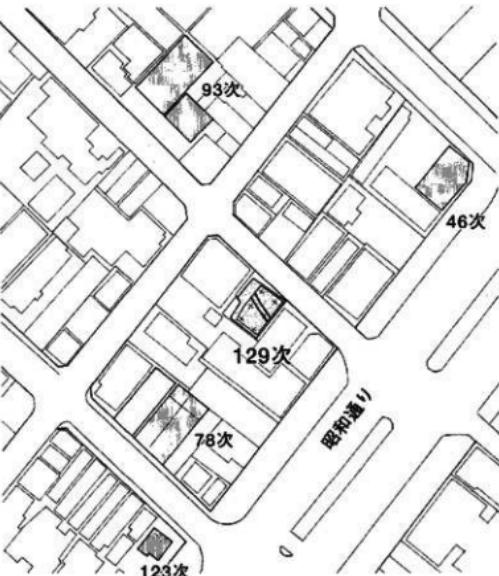


Fig1. 博多遺跡群第129次調査地点周辺図 (S=1/1500)

調査総括：埋蔵文化財課 課長 山崎純男

埋蔵文化財調査第一係長 山口謙治（調査年度）・力武卓治（整理年度）

調査服務：文化財整備課 宮川英彦（調査年度）・川村浩旭（整理年度）

事前審査：埋蔵文化財課事前審査係長 田中寿夫、主任文化財主事 大庭康時、事前審査係員 加藤  
隆也（試掘調査担当）

調查担当：埋蔵文化財課調査

第一係 久住猛雄（整理年度は事前審査係）

発掘調査作業にあたっては多くの発掘作業員のご協力を得た。現場における図面作成は、調査担当者のほか坂口剛毅（発掘調査員）、鍋ヶ江賢二（九州大学院生）、西原将大（福岡大学院生）、山口裕平、押方裕相（以上、福岡大学学生）が行なった。また、調査期間の一帯については、阿部泰之（埋蔵文化財課調査第一係）が担当し、また図面作成の協力を得た。整理作業は、担当者の指示のもと、上方高弘（整理調査員）、青田

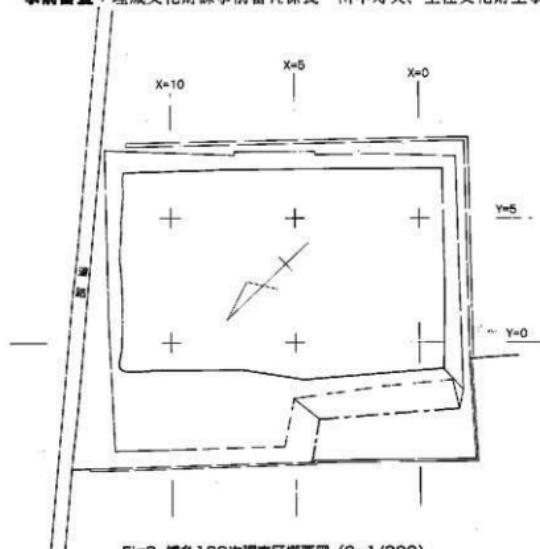


Fig2. 博多129次調査区概要図 (S=1/200)

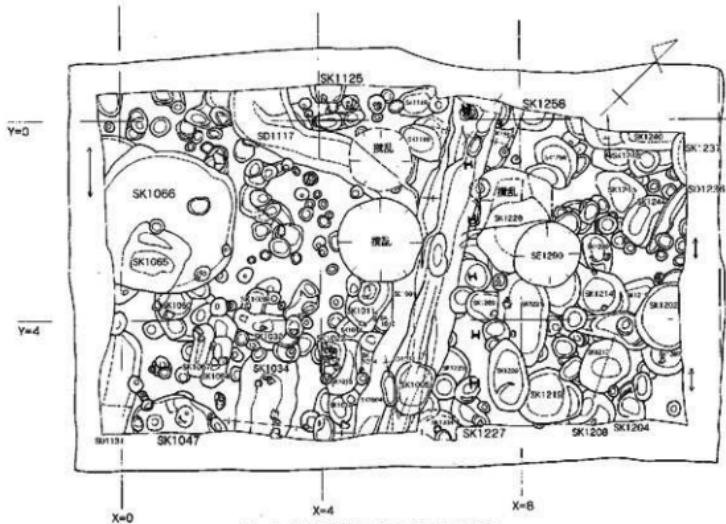


Fig3. 第1面造構平面図 (S=1/100)

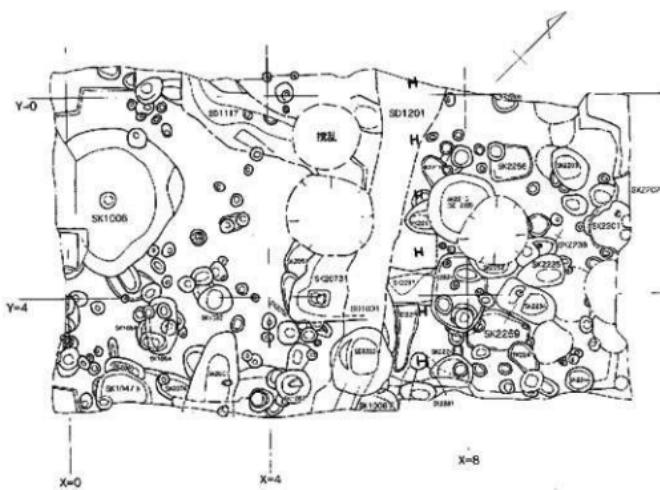


Fig4. 第2面遮構平面図 (S=1/100)

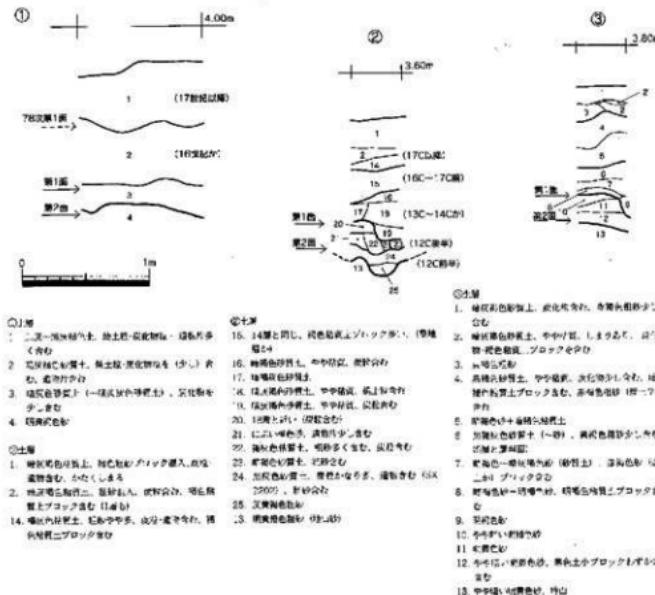


Fig5. 調査区盤面土層図 (S=1/40)

浩之（西南学院大学大学院生）、成清直子、甲斐田嘉子、口下部由美子、川鍋紀子、横山香織が行なった。また、出土した動物遺存体の整理と分析・報告は屋山洋（文化財部大規模事業等担当課）が行なった。これら調査および整理・報告書作成に関わった方々に対し、ここに記して感謝申し上げたい。

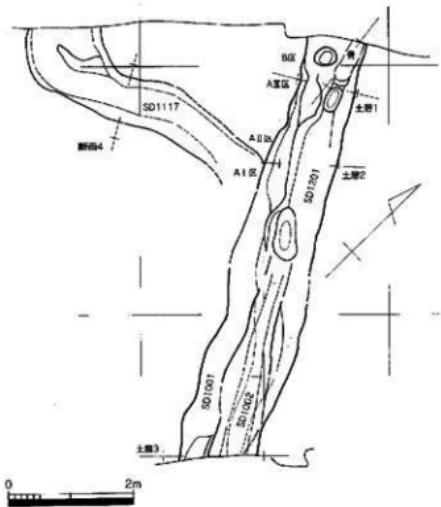


Fig. 6. SD1001 - 1201, SD1117 平面図 (S=1/80)

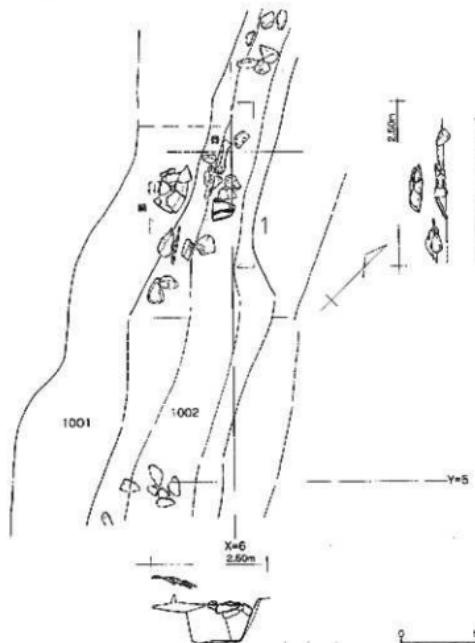


Fig. 7. SD1001 - 1002 上層遺物出土状況 (S=1/30)

### 3. 調査地点の立地と環境

博多遺跡群をめぐる歴史的な環境については、これまでの「博多」の報告書で詳細に触れられていることもあり、本報告書では通史的な詳細を述べることはしない。今回の第129次調査地点は、博多遺跡群北半の海岸側である「息ノ浜(息浜)」砂丘の西側中央部に位置する。現在の地表の標高は5.0~5.2m前後を測る。博多遺跡群において、平安時代末期(11世紀中頃以降)に中国人商人である博多綱首が多数定住し、貿易によって繁栄する都市となつたのは、まずは遺跡群南半の「博多浜」側であったが、この当時の「息浜」は砂丘が形成途上にあり、「博多浜」の海に対する障壁の役割を果たしていたようである。「息浜」の文献上の初見は、有名な『蒙古襲来絵詞』であり(12世紀末)、元弘三年(1333年)の元弘の変における博多の鎮西探題館における合戦を記す『博多日記』では「息浜」に肥後の菊池氏の宿所があつたことが見られる。またこれまでの発掘調査の所見では、「息浜」が都市としての博多の一部になつたのは、元寇を前後する12世紀後半以降と考えられており、「博多浜」側の都市に対しての新興の街場としての姿が考えられている。

「息浜」は、14世紀前半から都市の港

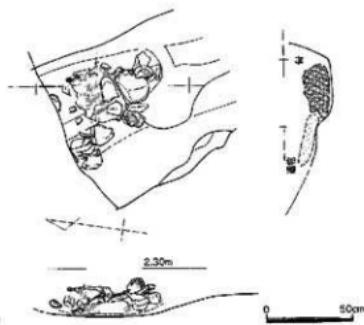


Fig. 8. SD1201 北側遺物 (獣骨他) 出土状況 (S=1/30)

湾として栄えるとみられ、これに隣接して本調査地点の北側近傍には、14世紀初頭（鎌倉時代末期）に妙楽寺（近世以降は博多浜）が建立された。妙楽寺は、次の室町時代に口明貿易や日朝貿易の拠点となる禅寺である。

ここで周囲の調査成果について簡単に述べておきたい（Fig.1）。129次調査の西側にあたる78次調査（福岡市埋蔵文化財調査報告書第393集）では、第3面で12世紀から13世紀前半にかけての土壙塗などの埋葬遺構が検出され、古いものでは11世紀後半代のものがある。遺構の状況からは、街場化するのは13世紀中頃からとみられ、以後の遺構は継続する。また16世紀後半代の第1面では、礎石や根石を用いる建物群や石積土坑が検出されている。また和泉型瓦器が多く出土していることが特筆されている。さらに西側の123次調査（福岡市埋蔵文化財調査報告書第670集）では、12世紀後半からの遺構が検出されるが、13世紀までのものが主体であり、中世後期（14～16世紀）の遺構・遺物が非常に少ないことが指摘されている。また12世紀後半に土壙塗が存在するとされるが、生活遺構と共に存することについて若干の疑問が呈されている。129次調査の東側の46次調査（福岡市報告書第281集）では、12世紀前半以降の包含層と12世紀後半以降の遺構が検出されている。ここでは12世紀以降、中世

後期までの遺構と遺物が継続する。また合計336枚の銅鏡が検出され、面積あたりの出土量が博多遺跡群の中でもかなり多いことが特筆されている。129次調査北側の93次調査（福岡市報告書第

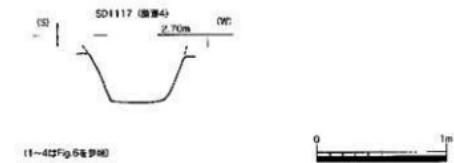
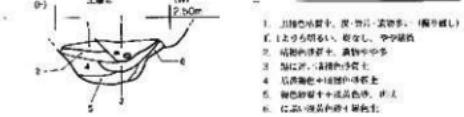
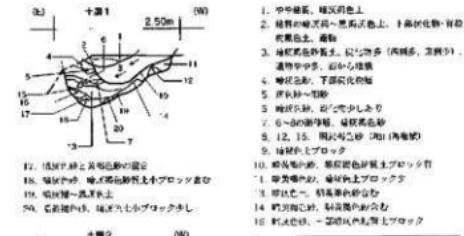


Fig.9. SD1001・1201 土層図, SD1117 断面図 (S=1/40)

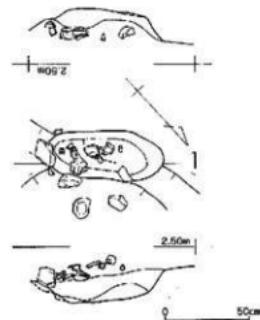


Fig.10. SK1005A 実測図 (S=1/30)

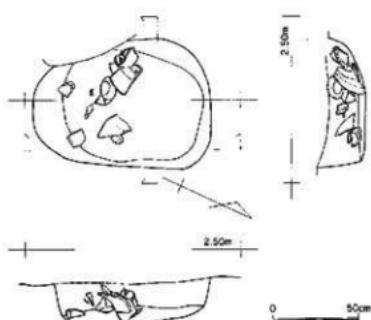


Fig.11. SK1005B 実測図 (S=1/30)

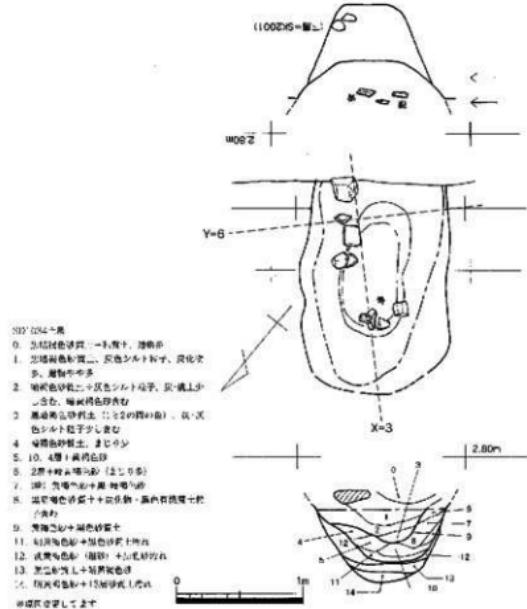


Fig. 12. SD1034 実測図・土層図 (S=1/40)

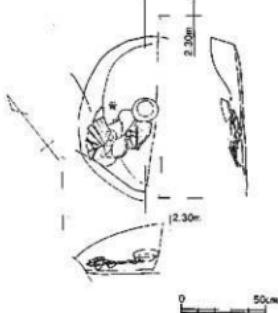


Fig. 15. SK1008 実測図 (S=1/30)

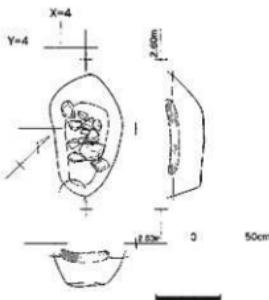


Fig. 16. SK1022 実測図 (S=1/40)

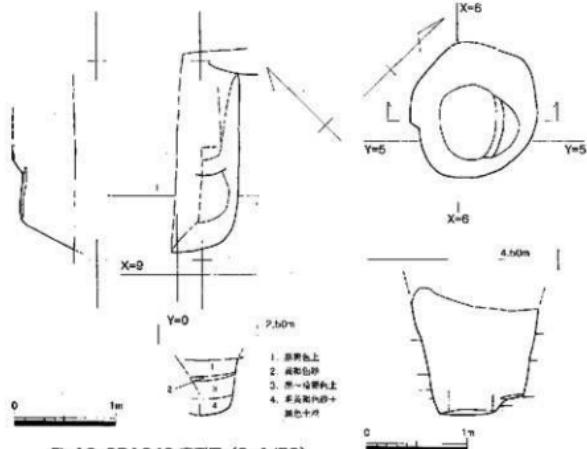


Fig. 13. SD1240 実測図 (S=1/50)

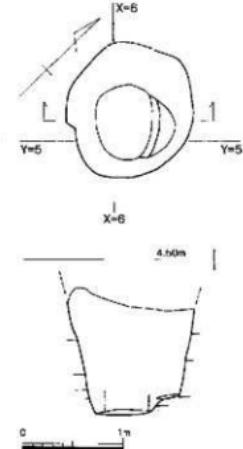


Fig. 14. SE2222 実測図 (S=1/50)

の地質学的観察がなされ、息浜砂丘の形成過程が考察されている。116次調査の報告（第668集）では、太閤街以前の息浜の街区が検討されるが、はたして広域に方位を一致した街区があったかは疑問が残る。

532集）では、砂丘層では12世紀の遺物があるが、遺構に伴う遺物は13世紀初頭以降か。ここでも古い遺構に土壤暮らしきものがある。以後は、中世後期まで遺構・遺物が継続するとみられる。なお報告では93次調査区西側に存在したとされる妙乗寺に関係する遺物は明らかではないとされるが、包含層などから軒丸瓦などがある程度出土しているのは中世後期のものか。また93次調査の報告では、基盤砂層

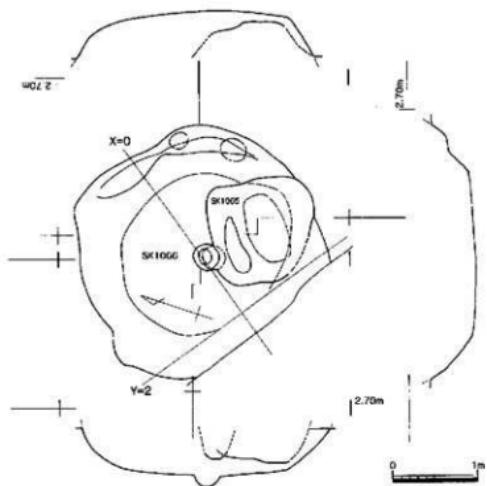


Fig.17. SK1065, SK1066 実測図 (S=1/60)

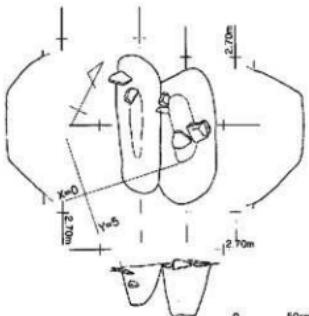


Fig.18. SK1067, SK1054 実測図 (S=1/40)

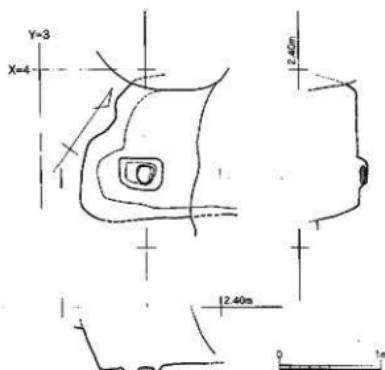


Fig.19. SK1011 実測図 (S=1/50)

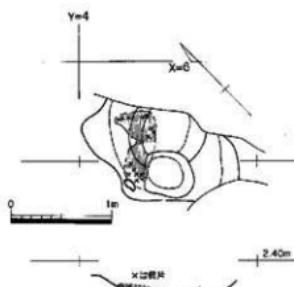


Fig.20. SK1280 実測図 (S=1/50)

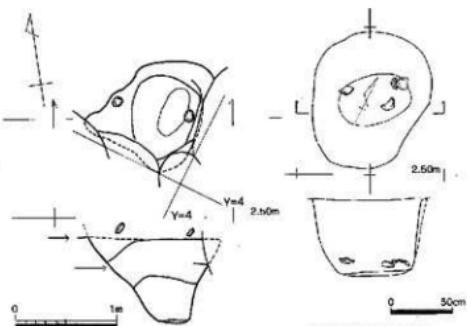


Fig.21. SK1214 実測図 (S=1/50)

Fig.22. SK1210 実測図 (S=1/40)

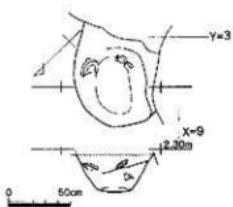


Fig.23. SK1230 実測図 (S=1/40)

## 第2章 調査の記録

### 1. 調査の経過

発掘調査は平成13年2月1日から行なった。

調査区の設定において (Fig. 2) 、まず調査区

中央やや東側に、南北のH鋼が6本先行して打ち込まれていたので、調査区の反転を南北に分けてすることが不可能となり、このH鋼列を境に東西に分けて行なうことになった。調査に先立ち、地表から-1.5~1.6mまでの動取り（排土搬出）は開発者側で行なったが、事前協議になかったこのH鋼のため、場内での排土処理が困難となったので、再度の協議により西



Fig24. SK2216 赤測図・土層図 (S=1/50)



Fig25. SK1221 実測図・土層図 (S=1/50)

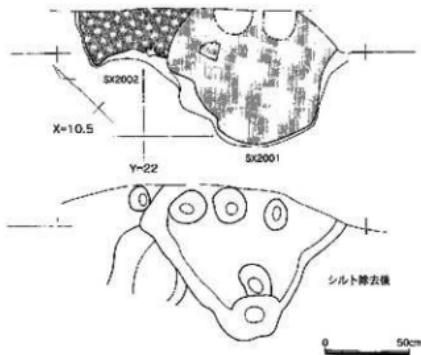


Fig26. SX2201・2202 実測図・土層図 (S=1/30)

Fig26. SX2201・2202 実測図・土層図 (S=1/30) 備 (I 区) 調査の排土を東側に置き、東側 (II 区) 調査の際にこれを開発者側の負担で搬出してもらうこととなった。なお、調査中の排土の搬出も必要に応じて行なうことになった。また、調査事務所が道路を挟んだ社屋ビルの一室であったため、調査器材類の置き場所などを確保する必要があったため、一部 (北側角) を調査するに至らなかった。また隣地の建物への影響が懸念されたため、西北側については矢板工事がなされず、調査部分も引きをとった形となっている。さらに、矢板も深度がやや浅いH鋼であったため、矢板の際は直に深く掘削することは危険であり、若干の引きを設けたため、実質的な調査面積は狭まっている。このように調査区を設定し、まずは東側 (I 区) の鋲取り面から中世遺構面までは人力の掘削を行なった。鋲取り面以下80cm前後までは近世 (17~18世紀) から中世末期 (16世紀後半) の包含層で、この層には明確で顕著な遺構面を見出すことができず、調査期間の問題もあり、これら包含層を除去した標高2.7m前後で褐灰色砂質土ない

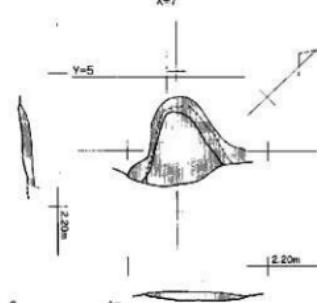


Fig27. SX2281 實測圖 (S=1/50)

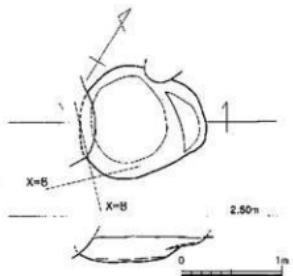


Fig28. SK1219 実測図 (S=1/50)

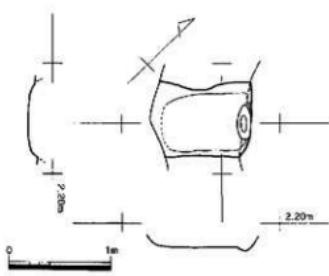


Fig29. SK2219 実測図

し汚れの多い黄褐色砂層の遺構面を認め、これを第1面とした（Fig. 5参照）。第1面までの掘削ではかなり時間を要し、第1面の遺構検出は2月14日に行なった。2月25日までに1面の調査を終了し、第2面への掘り下げを2月末に行ない、3月1日より第2面の遺構検出を行なった。第2面は、標高2.5m前後の淡黄褐色砂面で設定している。ここで調査担当の久住が、別の発掘調査報告書作成業務のために現場に専従することが難しくなったので、これよりほぼ1週間は阿部泰之がこれに代わり調査を担当することになった。I区第2面の調査は3月8日までに終了し、3月9日よりI区の排土搬出とII区の掘り下げを行なった。I区の勘取り面以下の人力掘削の際にかなり時間を要したので、II区では勘取り面から-40cm前後までの明らかに近世の包含層である部分については重機できらん動き取った。以下は人力で掘り下げ、第1面はI区と同様に標高（2.5～）2.7m前後で設定し、3月13日に遺構検出を行なった。1面の調査は3月20日にまで終了し、第2面の検出を3月21日から行なった。II区第2面の現場における調査作業は3月27日までに終了し、3月28日には現場と事務所の器材を撤収して全ての調査業務を終了した（なお埋戻し作業は建設工事側の都合で調査側では行なっていない）。

## 2. 調査の概要

調査範囲は諸般の理由により（「調査の経過」参照）、若干の制約があり、調査面積は160m<sup>2</sup>であるが、遺構面における実質的な調査範囲は120m<sup>2</sup>前後となっている（Fig. 2およびFig. 3・4、2～3頁）。遺構面はすでに述べたように、勘取り面（標高3.5～3.6m）以下70～80cmまでは近世から中世末期（16世紀後半）の包含層で、この間に明確な遺構面を見出すことができず、その下部の標高2.6～2.7mで褐灰色砂質ないし汚れの多い黄褐色砂層の遺構面を認め、これを第1面とした。これはレベル的には西側30mの第78次調査の第2面に相当する（土層はFig. 5、3頁）。第1面は、出土遺物から13世紀中頃～14世紀（一部15世紀）の遺構が主体であるが、一部12世紀後半～13世紀前半頃を含む（第1面全体図はFig. 3、2頁）。第1面の遺構はきわめて濃密で、複雑に重複している。中世に属する検出遺構は、土坑45基、溝状遺構3条、大小多数の柱穴（150以上）である（その他、近世～近代の井戸4基がある）。調査区中央に、略南北方向に幅1.0～1.7m前後の溝（SD1001=SD1201）があり、13～14世紀の町割の一端を示すのだろう。第2面は、第1面からさらに20～40cm前後下げた標高2.2～2.5m前後の淡黄褐色砂層（地山砂層）に設定した（第2面全体図はFig. 4、3頁）。遺構密度は第1面のような濃密さはないが、柱穴が多い。一部に第1面遺構の掘り残しを含み、また遺物は出土するのがはつきりしない覆土のものを含む。検出遺構は、土坑20基、井戸1基、整地層状遺構、多数の柱穴（110以上）がある。不明瞭な遺構の一部（整地層状遺構や埋葬遺構の可能性のあるもの）は、地山と思われた黄褐色砂を下げる途中で検出した。第2面の遺構の年代は、糸切り底の土師器を含むが、ヘラ切り底も存在し、12世紀初頭～13世紀前半が考えられる。なお、西側の第78次調査の同時期の遺構のような明確な埋葬施設はないが、

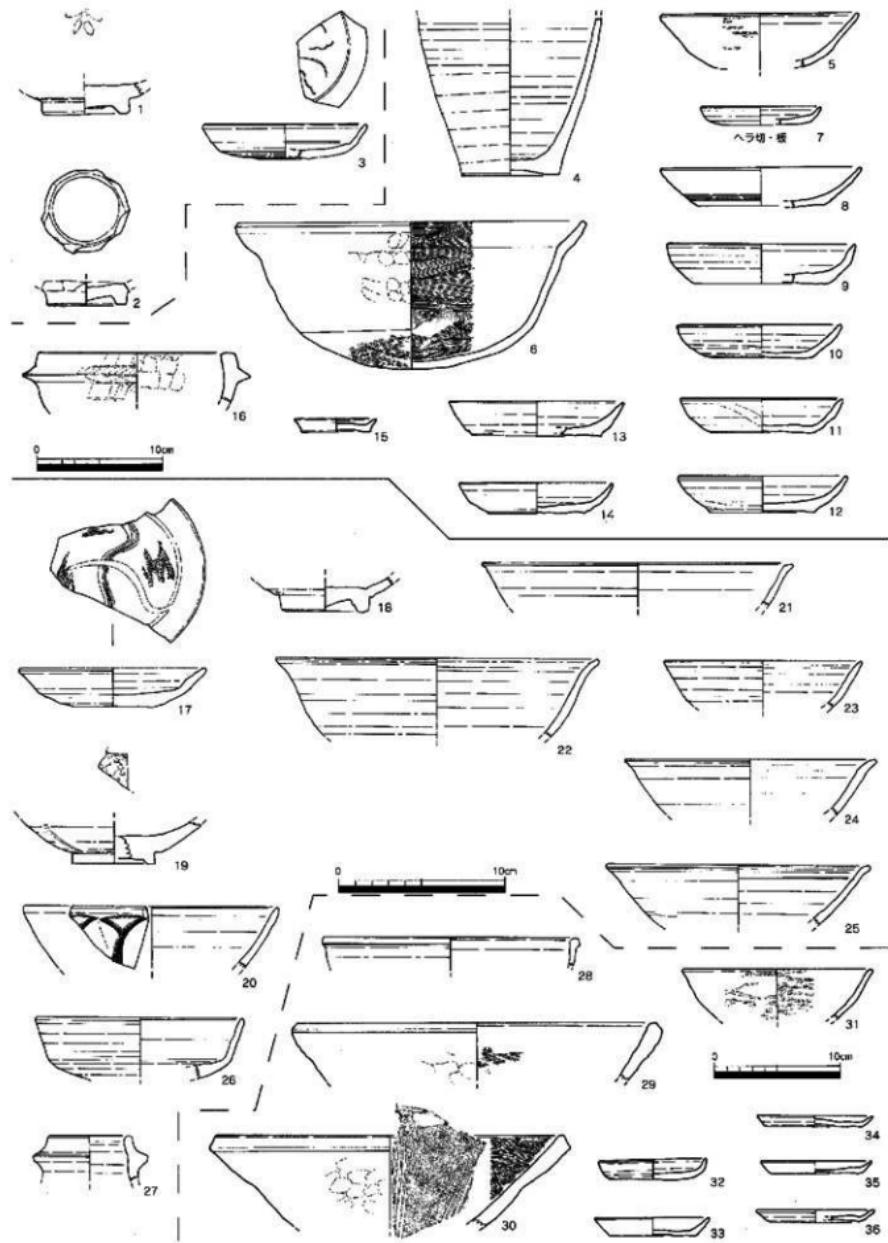


Fig30. SD1001,SD1201(1) 出土遺物実測図 (S=1/3,1/4)

Tab.1 Fig.30出土遺物観察表

番号	監理番号	地区	出土場所	出土位置・層位	遺物名	測量基準(m)-GPS測定位置		地土	鉱・外因色調	時期	備考	
						柱	最大幅	底面	側面			
1	010	I区1面	SD1901		瓦系系青磁1層7板		6.2	(1.8)	SVY/1灰白-褐色-ややむら どじし茶色	120中~後?	貝込-印刷文	
2	014	I区1面	SD1901		瓦系系青磁2層7板		6.7	(1.4)	SVY/1灰白-褐色	120中~後?	貝込-印刷文	
3	011	I区1面	SD1901	北・中一下層	山形瓦等瓦底盤	(0.2)	(0.6)	2.1	SVY/1灰白-褐色	120中~後?	貝込-印刷文	
4	002	I区1面	SD1901		中國物語印-繩維生		7.2	(2.8)	SVY/1灰白-褐色-少子量 色	120中~後?	貝込-印刷文	
5	013	I区1面	SD1901		瓦器-瓶	(19.0)		(4.4)	褐色-金属色多く含む	PW3Y/1黒褐色 PPV/1灰白		
6	001	I区1面	SD1901	--	土器器-壺	28.2	-	19.7	12.8 Imre/下の石、長石、電石 ガラスにむかひ-褐色	PW3Y/1黒褐色(1層) PW3Y/4灰白(1層)	120前?	四切
7	012	I区1面	SD1901		瓦器-壺	(9.6)		(6.3)	1.4m 褐色-金属色	SVY/1灰白		貝込-印刷文
8	013	I区1面	SD1901		土器器-壺	(18.1)		(10.2)	3.16 褐色-1mm程度の石斑-ごくわ ずかに含む	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120前?	赤切
9	018	I区1面	SD1901		土器器-壺	(18.0)		(10.4)	3.2 褐色-1mm程度の石斑-ごくわ ずかに含む	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120前?	赤切
10	004	I区1面	SD1901		土器器-壺	13.2		(4.4)	1.76 褐色-1mm程度の石斑-ごくわ ずかに含む	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120前?	赤切-印刷文
11	009	I区1面	SD1901		土器器-壺	(18.0)		(8.1)	2.88 褐色-1mm程度の石斑-長石	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120前?	赤切
12	007	I区1面	SD1901		土器器-壺	(18.5)	(0.5)	2.8	褐色-1mm程度の石斑-長石含む	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120前?	赤切
13	003	I区1面	SD1901		土器器-壺	(14.6)	(0.4)	2.76	褐色-1mm程度の石斑-長石含む	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120前?	赤切-印刷文
14	006	I区1面	SD1901		土器器-壺	(12.0)	(7.7)	2.4	褐色-1mm程度の石斑-長石含 む	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120前?	赤切
15	008	I区1面	SD1901		土器器-壺	(2.7)	(5.6)	1.0	褐色-1mm程度の長石ごくわ ずかに含む	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120前?	赤切
16	009	I区1面	SD1901	北・東・下層	漆器漆器-壺	(15.0)	(18.3)	(4.3)		SVY/1灰白		
17	116	II区1面	SD1901A	I区・下層	四角瓦青磁1層-平底盆	(11.1)		4.7	2.8 M7/灰白-褐色-氯化物 等で汚染	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	貝込-印刷文-漆器漆器
18	105	II区1面	SD1901A	中層	四角瓦青磁1層-壺		(2.1)	(2.1)	M7/灰白-やや褐色がつきつ け	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
19	114	II区1面	SD1901A	I区・下層	瓦系系青磁1層7板	(4.8)	(2.8)	9.7	SVY/1灰白-褐色-やや乳化 色含む	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
20	083	II区1面	SD1901A	I区・下層	瓦系系青磁1層-壺	(19.0)		(3.7)	SVY/1灰白-褐色-半透明 色	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
21	101	II区1面	SD1901A	ベルト	白釉白磁-壺	(18.0)		(2.8)	M8/灰白-褐色	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
22	077	II区1面	SD1901A	ベルト・急上層	口付-白釉-壺	(19.0)		(4.6)	SVY/1灰白-やや褐色 等で汚染	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	赤切-落葉木文
23	100	II区1面	SD1901A	ベルト・急下層	口付-白釉-平底盆	(11.0)		(2.8)	M8/灰白-やや褐色	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
24	078	II区1面	SD1901A	ベルト・急上層	白釉-壺	(15.0)		(3.6)	M8/灰白-褐色だがやや乳化 色	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
25	104	II区1面	SD1901A	中層	白釉V型-壺	(15.0)		(3.0)	SVY/1灰白-褐色	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
26	063	II区1面	SD1901A	中層	被塗漆器-壺	(12.0)		(3.6)	SVY/1灰白-褐色-やや乳化 等で汚染	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
27	099	II区1面	SD1901A	I区・下層	陶器-壺	(8.0)	(8.0)	(2.7)	M8/灰白-褐色細かいやや乳化 色	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
28	067	II区1面	SD1901A	下層	中国陶器1層-瓦底盤	(20.7)		(2.8)	M8/灰白-褐色-黑色粘土質 等	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
29	040	II区1面	SD1901A	上層	瓦質土器-壺	(28.0)		(4.7)	1-2mm程度の乳化わざかに 含む	SVY/1灰白-褐色-やや乳化(1 層)	120中~後?	
30	095	II区1面	SD1901A	下層	瓦質土器-壺	(28.0)		(3.4)	10mm/1灰白-褐色-やや乳化(1 層)	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
31	074	II区1面	SD1901A		瓦器-壺	(18.0)		(4.0)	SVY/1灰白-やや乳化	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	
32	106	II区1面	SD1901A	下層	土器器-壺	6.0		6.3	1.5-- 1.7 褐色	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	赤切-落葉木文
33	108	II区1面	SD1901A	下層	土器器-壺	(3.0)		(7.0)	1.56 褐色-1mm程度の乳化含む	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	赤切
34	110	II区1面	SD1901A	下層	土器器-壺	(3.0)		(7.0)	0.9 褐色	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	赤切-落葉木文
35	109	II区1面	SD1901A	下層	土器器-壺	(3.0)		(3.0)	1.0 褐色-1mmの乳化、生け付 やや乳化	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	赤切-落葉木文
36	112	II区1面	SD1901A	下層	土器器-壺	(3.0)		(3.0)	1.0 褐色-1mmの乳化、生け付 やや乳化	SVY/1灰白-7.5RV0/6 PWW/4灰白(1層)	120中~後?	赤切-落葉木文

その可能性のあるものもあるが確定ではない。基本的に12世紀初頭の遺構出現以来、集落の一部であり、遺構数が増大化する12世紀後半には街場化すると考えられる。

### 3. 検出遺構

本報告においては、紙幅の都合もあり、また出土遺物について比較的多くのを掲載したため、各遺構について細かく報告できなかった。ご寛恕されたい。また、遺構記号と番号については例言を参照されたい（各遺構の位置はFig.3・4を参照）。以下、主要な遺構について記述するが、その詳細については各図（Fig.6~29）を参照されたい。

#### (1) 溝状遺構 (SD)

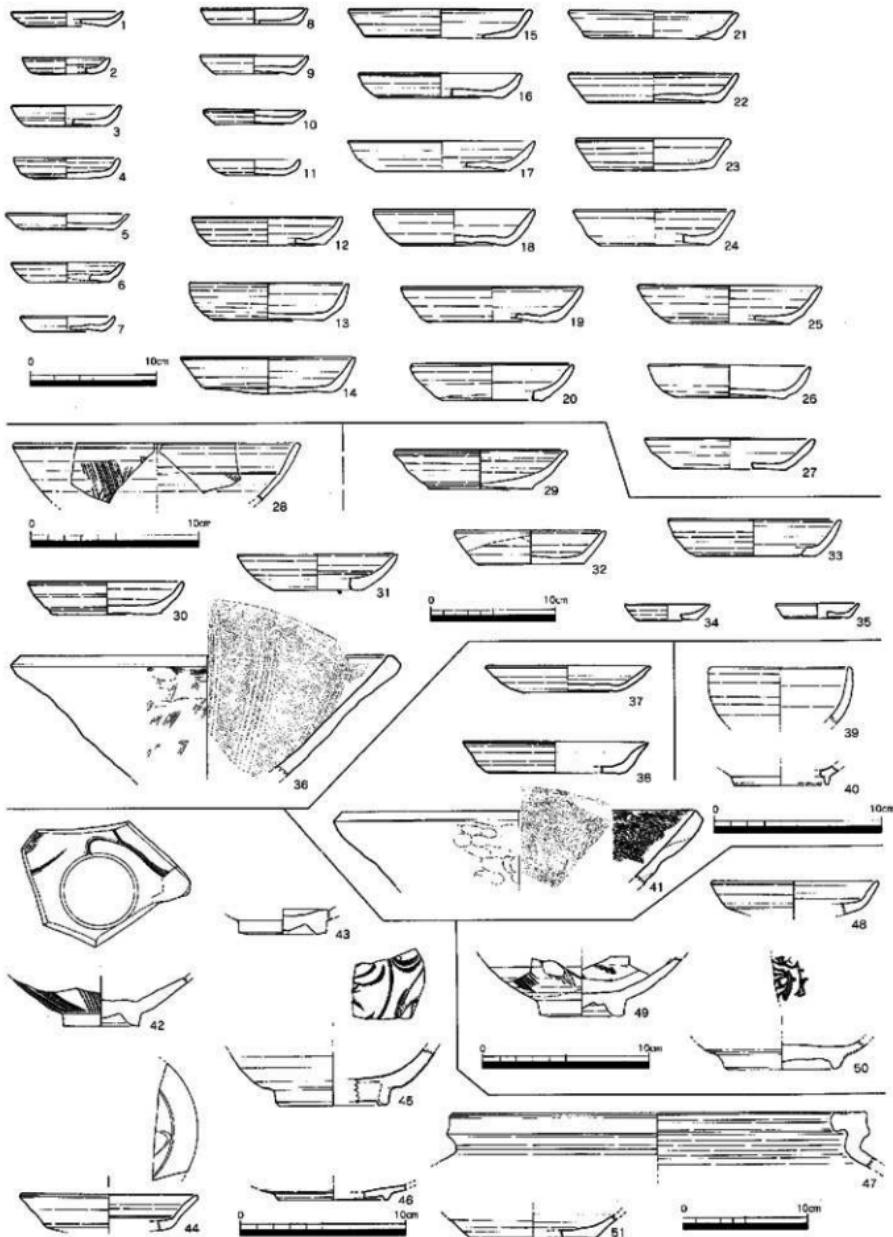


Fig31. SD1201(2), SD1002, SK1005(1), SD1117他 出土遺物実測図 (S=1/3, 1/4)

Tab.2 Fig.31出土遺物概要表

番号	遺物番号	地名	出土場所	層位	器種・様形	遺物(部分)・GPI(記号)	性質	出土	外観色調	時期	備考	
白生	森大田	赤目	高瀬									
1	069	三ノ宮1周	SD1091A	上層	土師器・盆	(3.0)	(8.4)	1.2	楕丸	7.5W97/28赤い楕丸 10W97/28赤	新切	
2	078	三ノ宮1周	SD1091A	上層	土師器・盆	(2.6)	(4.6)	1.35	楕丸・2cm前後の石底でくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
3	061	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(2.7)	(8.2)	1.2	楕丸	楕丸・1~2mmの石底、底面にくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸	新切
4	069	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(3.4)	(8.6)	1.45	楕丸・1~2mmの石底でくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
5	060	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(2.6)	(7.2)	1.2	楕丸	楕丸・2cm前後の石底でくずすりにむけ	10W97/28赤い楕丸	新切
6	046	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(3.9)	(9.3)	1.8	楕丸・1~2mmの石底、底面にくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸	新切?	
7	065	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(2.6)	(5.2)	1.2	楕丸・1~2mmの石底、底面にくずすりにむけ	10W97/28赤い楕丸	新切	
8	050	三ノ宮1周	SD1091A	ペルト	土師器・盆	(3.6)	(7.0)	0.8	楕丸	楕丸・1~2mmの石底でくずすりにむけ	10W97/28赤い楕丸	新切
9	064	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(2.7)	(4.6)	1.5	楕丸・1~2mmの石底含む	9.5W97/1灰赤丸 内10W97/4楕丸・黄緑	新切	
10	023	三ノ宮1周	SD1091A	ペルト	土師器・盆	(2.1)	(4.2)	1.2	楕丸	9.5W97/1灰赤丸 内10W97/1楕丸・黄緑	新切・板状瓦底	
11	068	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(7.4)	(6.6)	1.3	楕丸	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
12	042	三ノ宮1周	SD1091A	上層	土師器・盆	(12.1)	(9.1)	2.25	楕丸・1~2mmの石底でくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
13	076	三ノ宮1周	SD1091A	上層	土師器・盆	(12.8)	(8.0)	2.85	楕丸・1~2mmの石底含む	8W97/1灰赤丸	新切・板状瓦底	
14	092	三ノ宮1周	SD1091A	ペルト・上層	土師器・盆	(4.0)	(10.4)	1.0	楕丸	7.5W97/28赤い楕丸 内10W97/4楕丸・黄緑	新切・板状瓦底	
15	111	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(14.7)	(11.7)	2.3	楕丸・1~2mmの石底含む	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
16	107	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(3.0)	(8.6)	2.0	楕丸	楕丸・1~2mmの石底、底面にくずすりにむけ	10W97/28赤い楕丸	新切
17	081	三ノ宮1周	SD1091A	下層	土師器・盆	(16.0)	(9.8)	2.5	楕丸・1~2mmの石底でくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸	新切・板状瓦底?	
18	069	三ノ宮1周	SD1091A	ペルト・下層	土師器・盆	(3.0)	(8.4)	2.8	楕丸・1~2mmの石底含む	7.5W97/1灰赤丸	新切・板状瓦底	
19	064	三ノ宮1周	SD1091B	上層	土師器・坪	(14.0)	(10.0)	2.8	楕丸・1~2mmの石底でくずすりにむけ	10W97/28赤い楕丸	新切	
20	068	三ノ宮1周	SD1091B	上層	土師器・坪	(12.0)	(8.0)	2.9	楕丸	楕丸・1~2mmの石底でくずすりにむけ	10W97/28赤い楕丸	新切
21	081	三ノ宮1周	SD1091B	下層	土師器・坪	(13.8)	(10.0)	2.2	楕丸	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
22	090	三ノ宮1周	SD1091B	下層	土師器・坪	(13.6)	(8.0)	2.4	楕丸	7.5W97/28赤い楕丸	新切・板状瓦底	
23	079	三ノ宮1周	SD1091B	ペルト・上層	土師器・坪	(12.4)	(9.2)	2.85	楕丸	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
24	065	三ノ宮1周	SD1091B	ペルト・上層	土師器・坪	(12.0)	(8.0)	2.8	楕丸・1~2mmの石底、底面にくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
25	089	三ノ宮1周	SD1091B	上層	土師器・坪	(14.8)	(9.0)	3.05	楕丸・1~2mmの石底、底面にくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸 内10W97/4楕丸・黄緑	新切・板状瓦底	
26	071	三ノ宮1周	SD1091B	上層	土師器・坪	(15.0)	(9.0)	2.8	楕丸・1~2mmの石底でくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
27	083	三ノ宮1周	SD1091B	ペルト・上層	土師器・坪	(13.8)	(9.1)	2.5	楕丸	7.5W97/28赤い楕丸	新切?	
28	018	I区1周	SD1902	同安系青磁II型・瓶	土師器・坪	(11.7)	(3.06)	7.5W97/2灰青色・楕丸・わざわざに目立つ	7.5W97/2灰青色	12C中~後		
29	119	I区1周	SD1902	土師器・坪	土師器・盆	(12.0)			楕丸・わざわざに石長英石含む	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
30	126	I区1周	SD1902	土師器・坪	土師器・坪	(12.4)	(8.0)	3.7	楕丸・1~2mmの石底、底面にくずすりにむけ	9.5W97/1灰赤丸・淡青色	新切・板状瓦底	
31	020	I区1周	SD1902	土師器・坪	土師器・坪	(12.0)	(7.4)	2.8	楕丸・1~2mmの石底でくずすりにむけ	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
32	122	I区1周	SD1902	土師器・坪	土師器・坪	(12.4)	(8.1)	2.2	楕丸・1~2mmの石底含む	10W97/28赤い楕丸	新切・板状瓦底	
33	019	I区1周	SD1902	土師器・坪	土師器・坪	(13.8)	(9.4)	3.0	楕丸・1~2mmの石底やわざわざに目立つ	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
34	121	I区1周	SD1902	土師器・盆	土師器・盆	(6.0)	(4.0)	1.2	楕丸・1~2mmの石底含む	10W97/28赤い楕丸	新切?	
35	120	I区1周	SD1902	土師器・盆	土師器・盆	(7.0)	(3.2)	1.2	楕丸	7.5W97/28赤い楕丸	新切	
36	128	I区1周	SD1902	同安系青磁II型・瓶	土師器・坪	(31.2)	(9.0)	3.0	楕丸・少しづかげ子母やわざくわざに目立つ	9.5W97/1灰赤丸	新切	
37	123	I区1周	SD1902	同安系青磁II型・平底	土師器・坪	(13.0)	(8.0)	2.2	楕丸・1~2mmの石底含む	7.5W97/28赤い楕丸	新切・板状瓦底	
38	124	I区1周	SD1902	同安系青磁II型・平底	土師器・坪	(14.8)	(10.0)	2.8	楕丸・1~2mmの石底含む	10W97/28赤い楕丸	新切	
39	022	I区1周	SD1902	04-08上	青磁・小瓶	(3.0)	(3.48)	8W97/1灰・楕丸	8W97/1灰・楕丸	7.5W97/28灰青色 青磁・白底		
40	023	I区1周	SD1902	04-08上	青磁・小瓶	(3.0)	(1.0)	2.5	8W97/28灰青色・やや軟質	8W97/28灰青色・やや軟質	羽跡・淡青色	
41	021	I区1周	SD1902	04-05	同安系青磁II型・瓶	(28.4)	(16.00)	やや弱く妙に2孔	10W97/28灰青色	12C中~後		
42	130	I区1周	SD1905	下層	同安系青磁II型・瓶	(4.4)	(3.0)	9.5W97/1灰青色・楕丸	9.5W97/28灰青色	12C中~後	内輪・施錠文	
43	043	I区1周	SD1905B	04-07下層	同安系青磁II型・瓶	(3.0)	(1.8)	9.5W97/1灰青色・楕丸	10W97/28灰青色	12C中~後		
44	133	I区1周	SD1905	下層	同安系青磁II型・平底	(10.6)	(2.0)	2.5W97/2灰青色・楕丸	2.5W97/2灰青色	12C中~後		
45	028	I区1周	SD1905	下層	同安系青磁II型・瓶	(9.0)	(3.40)	9.5W97/28灰青色・楕丸	9.5W97/28灰青色・楕丸	12C中~後	耳込・圓筒形花文	
46	134	I区1周	SD1908	下層	同安系青磁II型・瓶	(8.0)	(3.04)	楕丸	2.5W97/2灰青色	12C中~後		
47	129	I区1周	SD1905	下層	同安系青磁II型・瓶	(33.0)	(4.0)	2.5W97/28灰青色・楕丸・白色	2.5W97/28灰青色・楕丸・白色	12C末~17C		
48	341	I区1周	SD1911	上層	同安系青磁II型・瓶	(10.0)	(3.0)	2.5W97/28灰青色・楕丸	2.5W97/28灰青色・楕丸	12C中~後		
49	343	I区1周	SD1911	中~下層	同安系青磁II型・瓶	(1.0)	(3.0)	9.5W97/1灰青色・楕丸	9.5W97/1灰青色・楕丸	12C中~後		
50	339	I区1周	SD1911	上層	同安系青磁II型・瓶	(4.8)	(1.70)	9.5W97/1灰青色・楕丸	9.5W97/1灰青色・楕丸	12C中~後	追加・圓筒形花文	
51	418	I区1周	SD1911	上層	土師器・坪	(19.2)	(2.0)	楕丸・やや弱く妙に2孔	10W97/28灰青色	新切		

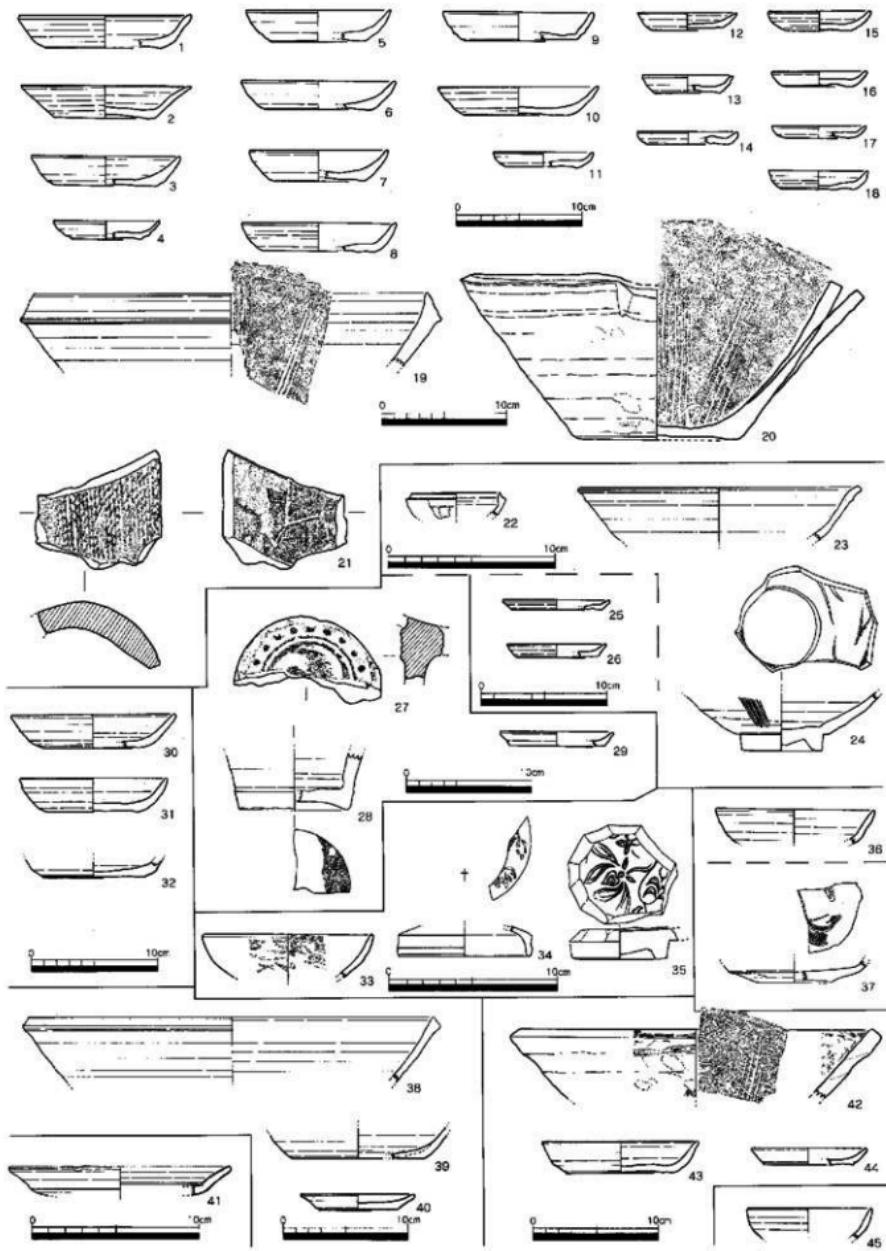


Fig32. SK1005(2), SK1008, SK1009, SE2222, SK1021, SK1011他 出土遺物実測図 (S=1/3, 1/4)

Tab.3 Fig.32出土遺物観察表

番号	整理番号	地名	出土遺物	出土位置・層位	器種・部類	測量・目視調査(印字は等元一様)	出土	地・外見色記	時期	備考	
								日付	月	年	
1	142	I区1周	BK102B	土器器・片	(13.0)	(0.0)	2.6	褐色~1~2mmの石英、長石や 砂岩含む	1979/2 錆い黄鐵	魚雷?	
2	195	I区1周	BK102B	土器器・片	(12.5)	8.0	2.8	褐色~1~2mmの石英含む に含む	1979/2/15 錆	魚切?	
3	192	I区1周	BK102B	土器器・片	(11.0)	9.0	2.4	褐色~1~2mmの石英含む	1979/2/9 錆	魚切	
4	191	I区1周	BK102B	土器器・片	(8.5)	9.0	1.6	褐色	1979/2/9 錆	魚切・板状斑	
5	147	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(11.5)	(7.0)	2.5	褐色~1~2mmの石英、長石や 砂岩含む	1979/2/2 錆	魚切
6	145	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(10.0)	(6.0)	2.3	褐色~1~3mmの石英中や多 く含む	1979/2/2 錆	魚切
7	148	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(11.5)	(7.0)	2.0	褐色~1~3mmの石英中や多 く含む	1979/2/2 錆	魚切
8	148	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(12.0)	(8.0)	2.2	褐色~1~4mmの石英含む に含む	1979/2/7/4 錆	魚切・板状斑
9	193	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(12.0)	(8.0)	2.3	褐色~1~2mmの石英含む に含む	1979/2/8 錆	魚切
10	140	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(11.0)	(8.0)	2.3	褐色~1~4mmの石英、長石や 砂岩含む	1979/2/2 錆	魚切・板状斑
11	127	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(10.0)	(8.0)	1.2	褐色~1~3mmの石英含む に含む	1979/2/2 錆	魚切
12	138	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(8.0)	9.7	1.4	褐色~1~4mmの石英含む に含む	1979/2/11 錆~ 錆	魚切・板状斑
13	144	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(7.0)	9.0	1.4	褐色~1~4mmの石英含む に含む	1979/2/12 錆	魚切
14	630	I区1周	BK102B	中~下層	土器器・片	(8.0)	9.0	1.8	褐色~1~4mmの石英、長石や 砂岩含む	1979/2/2 錆	魚切
15	626	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(9.0)	(8.0)	1.8	褐色~1~3mmの石英、長石や 砂岩含む	1979/2/2 錆	魚切
16	136	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(7.0)	(5.0)	1.2	褐色~1~3mmの石英含む に含む	1979/2/2 錆	魚切?
17	25	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(7.0)	(4.0)	1.0	褐色	外 1979/2/2 錆	魚切
18	141	I区1周	BK102B	中~下層	土器器・片	(7.0)	(5.0)	1.4	褐色	1979/2/2 錆	魚切
19	118	I区1周	BK102B	下層	鉄器(鐵錫) 錫錫	(3.0)	(5.0)	1.8	1979/2/後の鉄錫を含むや や錫	1979/2/後~1979/2 錫	1979/2/後
20	117	I区1周	BK102B	五重土器・器蓋・口	(20.0)	12.4	11.85	1979/2/後の石英含むや に含む	1979/2/後~ 錆	錆切?	
21	193	I区1周	BK102B	下層	丸瓦	(3.0)	(2.0)	1.2	褐色~1~2mmの石英含む に含む	1979/2/後~ 錆	錆切
22	626	I区1周	BK102B	中~下層	金合子・合子	(7.0)	(6.0)	1.45	褐色	1979/2/後~ 錆	外錆~錆
23	181	I区1周	BK102B	下層	白磁V型・瓶	(10.0)	(8.0)	1.0	NB/NB・瓶	1979/2/10 1979/2/12~130 錆	1979/2/後~120 錆
24	160	I区1周	BK102B	前立系柱部II・縦		4.7	(3.0)	3.7	1979/2/10~11・横長・やや扁平 青	1979/2/2 錆	120中~後
25	613	I区1周	BK102B		土器器・片	(8.0)	(7.0)	0.8	褐色~1~3mmの石英、長石 含む	1979/2/後~ 錆	魚切
26	162	I区1周	BK102B	下層	土器器・片	(0.0)	(0.0)	1.05	褐色~1~3mmの石英含む に含む	1979/2/後~ 錆	魚切
27	164	I区1周	BK102B	中~下層	剪瓦	(2.0)	(1.0)	1.0	褐色~1~3mmの石英含むや に含む	1979/2/後~ 錆	魚切?
28	165	I区1周	BK102B	中~下層	相撲跡・壺	(0.0)	(0.0)	0.20	NB/NB・壺・黒色粒子含む	1979/2/2 錆	外錆~粉付
29	146	I区1周	BK102B	中~下層	土器器・片	(0.0)	(0.0)	1.3	褐色	1979/2/2 錆	魚切~平手
30	140	II区1周	BK102B	下層	土器器・片	(10.0)	(7.0)	2.00	褐色~1~2mmの石英含む に含む	1979/2/2 錆	魚切
31	162	II区1周	BK102B	下層	土器器・片	(1.0)	(0.0)	2.7	褐色~1~2mmの石英、長石 含む	1979/2/2 錆	魚切
32	528	II区1周	BK102B		土器器・片		(0.0)	1.45	褐色~1~2mmの石英、長石 含む	1979/2/2 錆	魚切
33	168	II区1周	BK102B	下層	瓦	(10.0)	(3.0)	0.52	NB/NB・瓦	1979/2/後~ 錆	1979/2/後~ 錆
34	157	II区1周	BK102B	青釉・合子	(0.0)	(0.0)	0.0	NB/NB・瓦	1979/2/後~ 錆	天井附~壁附北	
35	158	II区1周	BK102B	白磁・碗(蓋)	(0.0)	(0.0)	0.0	NB/NB・碗	1979/2/後~ 錆	昌少~昌文(大字に昌 城)	
36	698	II区1周	BK102B	中~下層	土器器・片	(0.0)	(0.0)	0.27	褐色~1~3mmの石英含む に含む	1979/2/後~ 錆	魚切?
37	638	II区1周	BK102B	中~下層	青瓷青瓷工場・平底罐	(0.0)	(0.0)	1.25	1979/2/後~10~12月 青瓷~青瓷~ 青瓷~青瓷	1979/2/後~ 錆	120中~後
38	176	II区1周	BK102B	上層	東漢系灰陶瓦片等・假面	(0.0)	(0.0)	1.25	1979/2/後の假面含むや に含む	1979/2/後~ 錆	天井附~壁附
39	645	II区1周	BK102B	下層	土器器・片	(0.0)	(0.0)	2.05	褐色~1~3mmの石英含む に含む	1979/2/後~ 錆	魚切?
40	159	II区1周	BK102B	下層	土器器・片	(0.0)	(0.0)	1.2	褐色~1~2mmの石英含む に含む	1979/2/後~ 錆	魚切
41	174	II区1周	BK102B	中~下層	施釉青瓷罐や・青瓷 付假面	(0.0)	(0.0)	1.75	NB/NB・青瓷~青瓷~ 青瓷~青瓷	1979/2/後~ 錆	140?
42	168	II区1周	BK102B	中~下層	瓦瓦工器・罐	(0.0)	(0.0)	0.85	褐色~1~3mmの石英含む に含む	1979/2/後~ 錆	140?前
43	169	II区1周	BK102B	中~下層	土器器・片	(0.0)	(0.0)	2.4	褐色	1979/2/後~ 錆	魚切
44	170	II区1周	BK102B	中~下層	土器器・片	(0.0)	(0.0)	1.4	褐色~1~2mmの石英含む に含む	1979/2/後~ 錆	魚切
45	641	II区1周	BK102B	中~下層	土器器・片	(0.0)	(0.0)	2.45	褐色~2mmの石英含む に含む	1979/2/後~ 錆	魚切

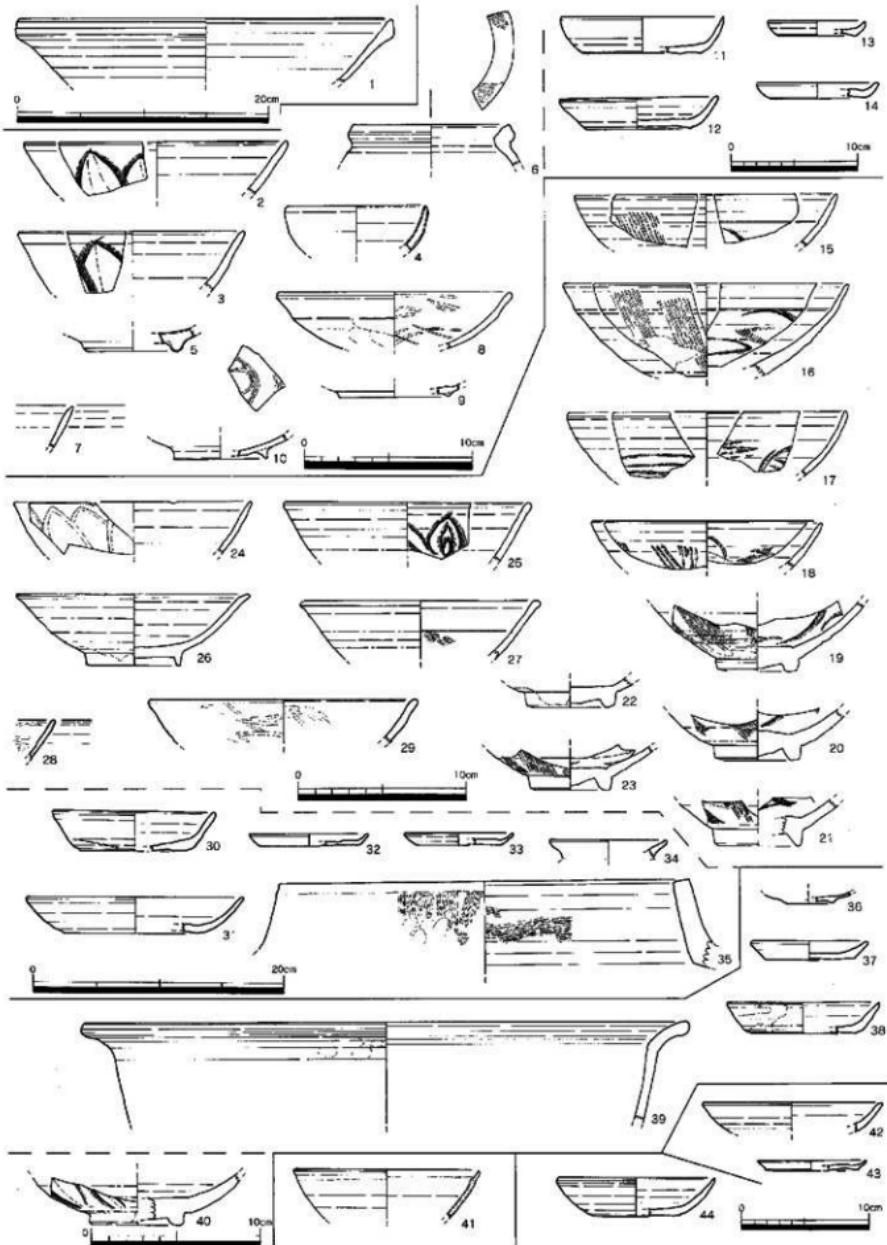


Fig33. SK1034(2),SK1214,SK1047,SK1055,SK1067,SD1131他 出土遺物実測図 (S=1/3,1/4)

Tab.4 Fig.33出土遺物観察表

番号	監査番号	地区	出土位置	層位	断面-断材	走査(UL(Gm))	N(北)は東北-西	地質	地盤	特徴	備考	
								柱径	最大幅	高さ		
1	162	I区1号	SK1032		東端系鉄物質-骨粉	(30.3)		(3.10)	わずかに移動食みやけく 沙粒-沙泥	N7/1(底)- 柱底-N8/底		
2	162	I区1号	SK1034	北-上層	陶瓦系鉄物質-灰	(18.8)		(3.2)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(リーフ)透明 層	3C前 柱基-鐵器帯文	
3	179	I区1号	SK1034	南-中-下層	陶瓦系青銅三脚-灰	(13.6)		(3.7)	N7/灰瓦-柱底	N7/柱底- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(リーフ)透明 層-小金井	
4	187	I区1号	SK1034		陶瓦系青銅三脚-灰	(3.0)		(2.85)	N7/灰瓦-柱底	N7/柱底- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(リーフ)透明 層-小金井	
5	951	I区1号	SK1034	北-上-中層	陶瓦系青銅三脚-灰	(18.8)		(1.35)	N8/灰-柱底	N8V9/1(底)透明 層	1.5V97/1(リーフ)透明 層-小金井	
6	180	I区1号	SK1034	南-中-下層	中国漆器-灰-漆	(16.0)		(2.5)	N7/灰瓦-柱底- 柱底-灰瓦	N7/柱底- 柱底-灰瓦	1.5V97/1(リーフ)透明 層-小金井	
7	180	I区1号	SK1034		口沿付白磁-灰	(3.0)		(2.8)	N8/灰瓦-柱底- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(リーフ)透明 層-手取乳頭-灰瓦	1.5C#-14C#	
8	180	I区1号	SK1034	上層	瓦片-陶	(14.2)		(0.25)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	N8/底		
9	189	I区1号	SK1034		瓦片-陶	(6.6)		(0.8)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(底)		
10	180	I区1号	SK1034		瓦片-陶	(5.6)	(1.1)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(底)- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(リーフ)透明 層-小金井		
11	181	I区1号	SK1034	北-上層	土器-灰-片	(18.0)	(3.0)	2.8	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(底)- 柱底-灰瓦	赤切-板状灰陶	
12	285	三(1)号	SK1214	下層	土器-灰-片	(12.8)		2.4	7.75	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	赤切?
13	185	I区1号	SK1034	北-上-中層	土器-灰-片	(7.0)		(0.2)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	赤切?	
14	186	I区1号	SK1034	上層	土器-灰-片	(9.0)		(1.0)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	赤切?	
15	239	I区1号	SK1047	下層	陶瓦系青銅三脚-灰	(18.7)		(3.0)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(リーフ)透明 層	1.5C#-14C#	
16	212	I区1号	SK1047	東	陶瓦系青銅三脚-灰	(27.3)		(5.5)	N7/灰-柱底	N8/底		
17	247	I区1号	SK1047	下層	陶瓦系青銅三脚-灰	(18.0)		(3.05)	N8/灰-柱底- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(リーフ)透明 層-大金井	1.5C#-後	
18	229	I区1号	SK1047	下層	陶瓦系青銅三脚-灰	(18.0)		(2.6)	2.8V97/1(底)- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(リーフ)透明 層-水鉢	1.5C#-後	
19	219	I区1号	SK1047	上層	陶瓦系青銅三脚-灰	(4.6)		(4.25)	N7/灰瓦-柱底	2.5V97/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
20	218	I区1号	SK1047	下層	陶瓦系青銅三脚-灰	(5.1)		(3.1)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	2.5V97/1(リーフ)透明 層-柱底-灰瓦	1.5C#-中-後	
21	233	I区1号	S-1047	下層	陶瓦系青銅三脚-灰	(13.2)		(2.6)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層-柱底-灰瓦	1.5C#-中-後	
22	237	I区1号	SK1047	下層	陶瓦系青銅三脚-灰	(6.3)		(1.85)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層-柱底-灰瓦	1.5C#-中-後	
23	219	I区1号	SK1047	下層	陶瓦系青銅三脚-灰	(4.8)		(2.7)	N7/灰瓦-柱底	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
24	244	I区1号	SK1047	上層	陶瓦系青銅三脚-灰	(14.2)		(1.10)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
25	213	I区1号	SK1047	東	陶瓦系青銅三脚-灰	(14.0)		(3.05)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層-柱底-灰瓦	1.5C#-中-後	
26	209	I区1号	SK1047	下層	白磁-灰	(18.0)	(0.6)	(4.25)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	1.5C#-中-後	
27	230	I区1号	SK1047	下層	白磁-灰	(14.0)		(1.0)	N8/灰瓦-柱底	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
28	217	I区1号	SK1047	下層	瓦片-陶	(2.30)			10V98/2(底)- 柱底-灰瓦	10V98/2(底)- 柱底-灰瓦		
29	234	I区1号	SK1047	下層	瓦片-陶	(18.0)		(2.7)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
30	211	I区1号	SK1047	上層	土器-灰-片	(13.0)	(0.6)	3.2	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
31	222	I区1号	SK1047	下層	土器-灰-片	(17.0)		(1.10)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
32	215	I区1号	SK1047	下層	土器-灰-片	(5.6)		(1.0)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
33	241	I区1号	SK1047	下層	土器-灰-片	(9.0)		(0.95)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
34	240	I区1号	SK1047	下層	土器-灰-片	(9.4)		(2.4)	1.85	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後
35	221	I区1号	SK1047	下層	土器-灰-片	(22.0)		(17.0)	-4cmの石器、 丸い包み- 内側が多少く含み	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	
36	206	I区1号	SK1047	上層	瓦片-陶	(14.0)		(0.85)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	1.5C#-中-後	
37	208	I区1号	SK1047	上層	瓦片-陶	(10.0)		(1.1)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	1.5C#-中-後	
38	209	I区1号	SK1047	上層	瓦片-陶	(11.0)		(0.8)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	1.5C#-中-後	
39	182	I区1号	SK1047	下層	土器-灰-片	(6.0)		(0.6)	1~2cmの石器、 丸い包み- 内側が多少く含み	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	
40	267	I区1号	SK1047	下層	土器-灰-片	(6.5)		(3.10)	N8/底- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	1.5C#-中-後	
41	245	I区1号	SK1047	下層	白磁-灰-小皿	(10.0)			7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
42	416	I区1号	SK1047	下層	白磁-灰-小皿	(14.0)		(1.25)	N8/底- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
43	247	I区1号	SK1047	下層	土器-陶	(9.0)			7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	
44	265	I区1号	SD-121	上層	土器-陶	(12.0)		(0.0)	7.8V98/1(底)- 柱底-灰瓦	7.8V98/1(リーフ)透明 層	1.5C#-中-後	

SD1001、SD1201 (Fig. 6・7、4頁) (図版4-1~7、図版5-1) は、第1面中央で検出した同一の溝。N (磁北) -28°~29° -W の方位。幅1.0~1.4m、断面はU字形ないし逆台形で、土層によると数度の掘り返しあり (Fig.9、5頁)。最後の掘り返しはSD1002であるが、北側は不明。SD1001上層、SD1002とSD1201で黒骨の出土が目立つ (Fig.7・8)。遺物から (Fig.30、Fig.31-1~27、Fig.37-1) 、下層に13世紀後半があり、上層は14世紀のものがあるので (最上層は15世紀前半の土師器罐がある) 、溝の時期はこの幅であろう (12世紀代などの占い遺物が多いが混入である)。SD1002は、14世紀後半から15世紀初頭に下る (Fig.31-28~36)。SD1117は、SD1001と直交する関係の溝で (切り合い不明) 、西端で北に屈曲する (Fig.6)。N-65° -E、断面は逆台形 (Fig.9下) で、幅0.8~1.2mである。

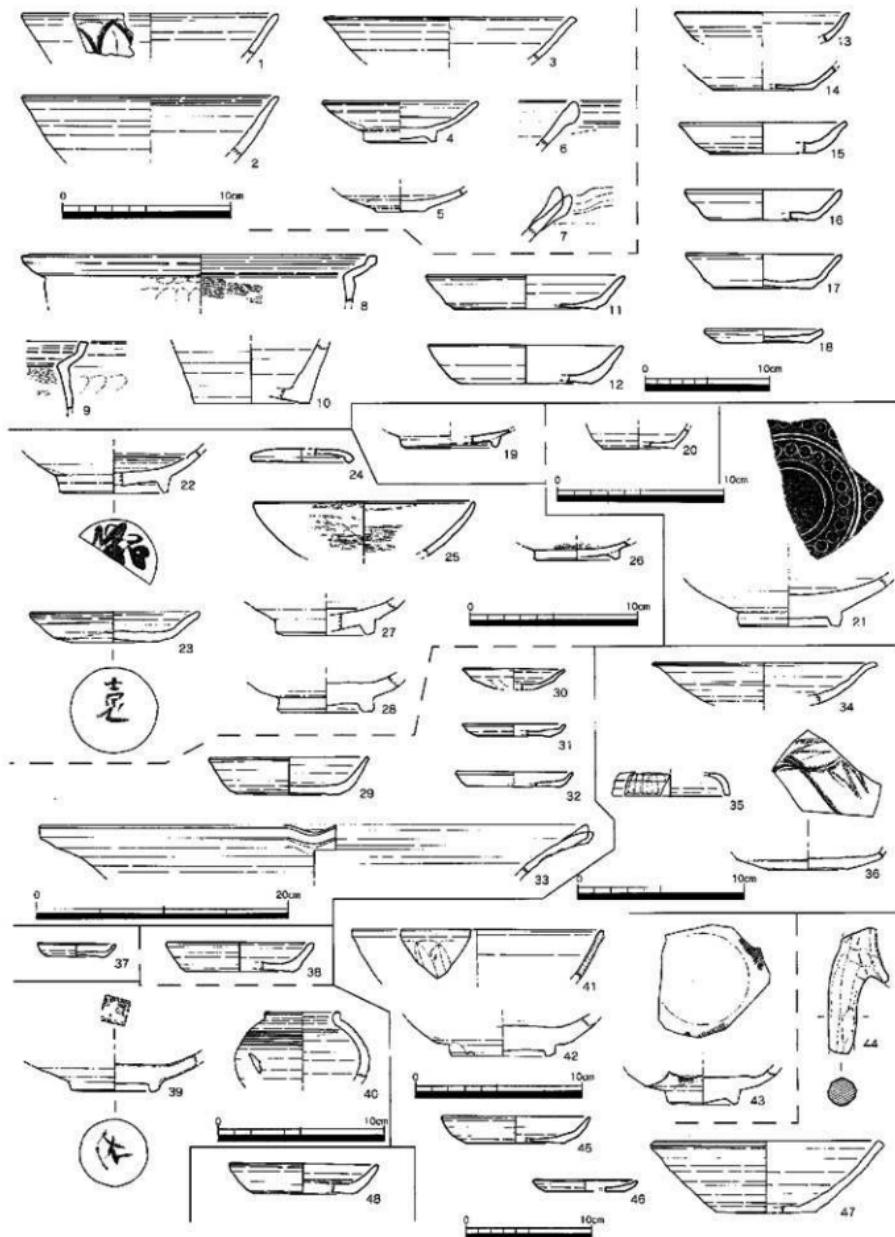


Fig34. SK1054,SK1066,SD1212,SK1207,SK1208, I区第1面ピット(SP)他 出土遺物実測図 (S=1/3,1/4)

Tab.5 Fig.34出土遺物觀察表

序号	野番号	地区	出土地點	出土社壁・層位	器種・形態	測量(高程)・内地標尺・地 点名	測量 高程 点名	地質	地 質	地 質	地 質	地 質	
1	209	I区1面	SK1054	中一下層	陶系青磁土器-罐	(18.0)	(3.6)	N1/山-標高-半黒質	7.907/1/開縫灰透明白 白質	130cm	外層-鐵鏽介文		
2	231	I区1面	SK1054	上層	陶系青磁土器-罐-瓶	(15.3)	(3.7)	N1/灰-標高	1070/1/通透明白-灰質	120cm-1m			
3	932	I区1面	SK1054	中一下層	陶器罐-瓶	(19.0)	(2.6)	7.517/1/褐色-灰-やや 色濃	900/1/通透明白-二次 鉄鏽帶等に富む	110cm-120 cm			
4	194	I区1面	SK1054	中-下層	陶系青磁-高台付罐	(18.4)	(4.4)	SYB/1/白-標高	7.917/1/灰-半黒質	120cm			
5	228	I区1面	SK1054	中-下層	白磁罐-高台付罐	(2.3)	(1.6)	2.517/1/白-高台-黑色 土器-蓋	SY//1/灰-半黒質	120cm			
6	226	I区1面	SK1054	中一下層	黑褐系高足土器-片口 盤	(2.0)	(2.0)	7.517/1/灰-標高	SY//1/灰-半黒質	110cm-120cm			
7	203	I区1面	SK1054	中一下層	黑褐系高足土器-片口 盤	(2.0)	(2.0)	7.517/1/灰-標高	SY//1/灰-半黒質	110cm-120cm			
8	198	I区1面	SK1054	中一下層	灰質土器-罐-蓋-盤	(28.0)	(3.0)	10197/1/灰-標高-和鉢- ややくろ味付	900/1/1/灰-標高	180	混入か?		
9	191	I区1面	SK1054	中-下層	灰質土器-罐-灰-盤	(3.0)	(3.0)	SYB/4/灰-標高-やや 色濃	902/1/灰-灰質	180	混入か?		
10	201	I区1面	SK1054	中-下層	陶器罐-瓶	(3.3)	(4.6)	SYB/1/灰-標高	2.517/1/灰-不透明白				
11	202	I区1面	SK1054	中-下層	土器罐-片	(15.0)	(11.0)	7.7	900/1/灰-後の長ちわび 等に富む	10197/1/灰-	灰質		
12	204	I区1面	SK1054	中-下層	土器罐-片	(19.0)	(3.1)	900/1/灰-後の長ちわび 等に富む	SYB/1/灰-白	180	灰切?		
13	227	I区1面	SK1054	中-下層	土器罐-片	(32.0)	(2.4)	標高-1mm後の長ちわび 等に富む	10197/1/灰-標高- 10197/1/灰-標高				
14	236	I区1面	SK1054	中-下層	土器罐-片	(7.0)	(2.0)	標高-1mm後の長ちわび 等に富む	7.917/1/灰-標高		灰切		
15	228	I区1面	SK1054	土器罐-片	(13.0)	(3.0)	1mm前の長ちわび等に富 む	10197/1/灰-標高- 4.72透明白		灰切			
16	196	I区1面	SK1054	土器罐-片	(12.0)	(2.4)	2.5	901/1/灰-白		灰切			
17	191	I区1面	SK1054	土器罐-片	(12.0)	(2.0)	2.5	901/1/灰-白		灰切?			
18	196	I区1面	SK1054	土器罐-片	(3.0)	(3.0)	1.1	標高-3mm後の長ちわび 等に富む	1.3/1/灰-透明白	灰切			
19	509	I区1面	SK1054	中-下層	瓦器-罐	(3.1)	(1.9)	標高	0/灰				
20	349	I区1面	SK1054	土器罐-片	(4.0)	(1.25)	NA-灰-白	1000/1/灰-透明白- 沙久ス質					
21	268	I区1面	SK1118	陶器罐-灰-罐	(6.0)	(3.0)	MS-灰-標高	10197/1/灰-通透明白-白 土器罐		金合内附土目跡 印加6-5			
22	967	I区1面	SP1153	白磁切-罐	(6.0)	(2.7)	NA-灰-白	2.50/1/灰-白	110cm-120cm 外壁厚、底部8-15				
23	340	I区1面	SP1075	上層	陶器罐-片-平底罐	(10.0)	(5.1)	1.8	SY/1/灰-白	10197/1/灰-通透明白 10197/1/灰-白-片-平底 罐			
24	176	I区1面	SP1062	中-下層	瓦器-罐	(6.0)	(6.0)	7.517/1/灰-白	10197/1/灰-白	10197/1/灰-白			
25	344	I区1面	SP1248	瓦器-罐	(18.0)	(2.0)	SYB/1/灰-白-罐-灰-やや 軟質	NA-灰-白					
26	181	I区1面	SP1028	瓦器-罐	(6.0)	(1.15)	SYB/1/灰-白	NA-灰-白					
27	930	I区1面	SP1035	上層	白磁切-罐-灰	(3.0)	(1.0)	NA-灰-白	10197/1/灰-オーリーブ透明白 1.20cm-1.40cm 厚?				
28	177	I区1面	SP1044	陶系青磁土器-罐-灰	(3.0)	(2.0)	10197/1/灰-透明白	2.50/1/灰-透明白		DC中-後			
29	288	I区1面	SP1136	土器罐-片	(12.0)	(8.0)	2.5- 3.15	標高-1mm後の長ちわび 等に富む	2.5197/2/5cm-白- 10197/1/灰-白	新切-板状压痕			
30	223	I区1面	SP1046	土器罐-片	(6.0)	(3.0)	2.0	標高	10197/1/灰-白	新切?			
31	968	I区1面	SP1046	土器罐-片	(6.0)	(6.0)	1.0	標高	1.5/10cm-3cm-透明白	新切-板状压痕			
32	224	I区1面	SP1053	土器罐-片	(6.0)	(1.0)	標高-1mm後の長ちわび 等に富む	10197/3/灰-度		新切			
33	257	I区1面	SP1136	高炭系粘合土器-片-灰 等	(44.0)	(6.0)	細かな谷筋と互い違 る	NA-灰-白					
34	228	I区1面	SD1213	灰	(12.0)	(3.0)	2.5197/2/5cm-白- 10197/1/灰-白	2.5197/2/5cm-白- 10197/1/灰-白					
35	222	I区1面	SD1212	中-下層	青白-白子盤	(7.0)	(2.0)	NA-灰-白-盤	青白を帯びた灰青色 等		見疎-強擦-鉄錆斑跡		
36	223	I区1面	SD1212	灰-ペルト	陶系青磁土器-罐-平底罐	(4.0)	(1.0)	NA-灰-白-罐-灰-わざに富 む色-白-青	10197/1/灰-通透明白	120cm-1m			
37	402	II区1面	SK1202	灰	土器罐-片	(8.0)	(4.0)	1.0	標高-1mm後の長ちわび 等に富む	10197/1/灰-白			
38	419	II区1面	SK1207	中-下層	土器罐-片	(11.0)	(8.0)	2.4	標高-1mm後の長ちわび 等に富む	10197/2/2cm-白	新切-板状压痕		
39	420	II区1面	SK1207	中-下層	高炭系青磁土器-罐-灰	(5.2)	(2.3)	NA-灰-白-罐	2.50/1/灰-通透明白 大川-灰	120cm-1m 外透明白-底部8-15	青白-「河内透明白」印 加		
40	422	II区1面	SK1207	灰-ペルト	陶器罐-小皿	(4.0)	(2.0)	2.5197/2/2cm-白-罐-灰-や や軟質	2.5197/2/2cm-白-罐-灰-や や軟質				
41	484	II区1面	SK1208	陶系青磁土器-罐-灰	(15.0)	(2.0)	NA-灰-白-罐	青白-度の差異でかか る大きさの裂	120cm-~1.4 m	(大字庭田-2)			
42	487	II区1面	SK1208	陶系青磁土器-罐-灰	(6.0)	(1.0)	NA-灰-白-罐	2.5197/2/2cm-白-罐-灰- やや軟質	140cm-~1.4 m				
43	418	II区1面	SK1208	中-下層	陶系青磁土器-罐-灰	(4.2)	(2.1)	SYL/1/灰-白-やや 軟質	SYL/2/2cm-1/2cm-透明白	~120cm-~1.4 m			
44	416	II区1面	SK1208	灰	陶系青磁土器-罐-灰	(4.7)	(0.0)	SYL/1/灰-白-やや軟質	NA-灰-NA-西灰	160cm	新入か? 新切7-12cm		
45	414	II区1面	SK1208	中-下層	土器罐-片	(0.0)	(7.0)	2.2	標高-1mm後の長ちわび 等に富む	SYB/4/透明白	新切-板状压痕		
46	419	II区1面	SK1208	上層	土器罐-片	(3.0)	(6.0)	0.9	標高	10197/2/2cm-白-罐-灰- やや軟質	新切?		
47	405	II区1面	SK1208	四半	高炭系青磁土器-小皿 等	(7.0)	(3)	5.76	1mm前後の長ちわび等に富 むやや軟質	10197/2/2cm-白-罐-灰- やや軟質	新切-板状压痕		
48	405	II区1面	SK1224	土器罐-片	(11.0)	(7.0)	2.4	標高-1mm後の長ちわび	10197/2/2cm-白-罐-灰- やや軟質	新切			

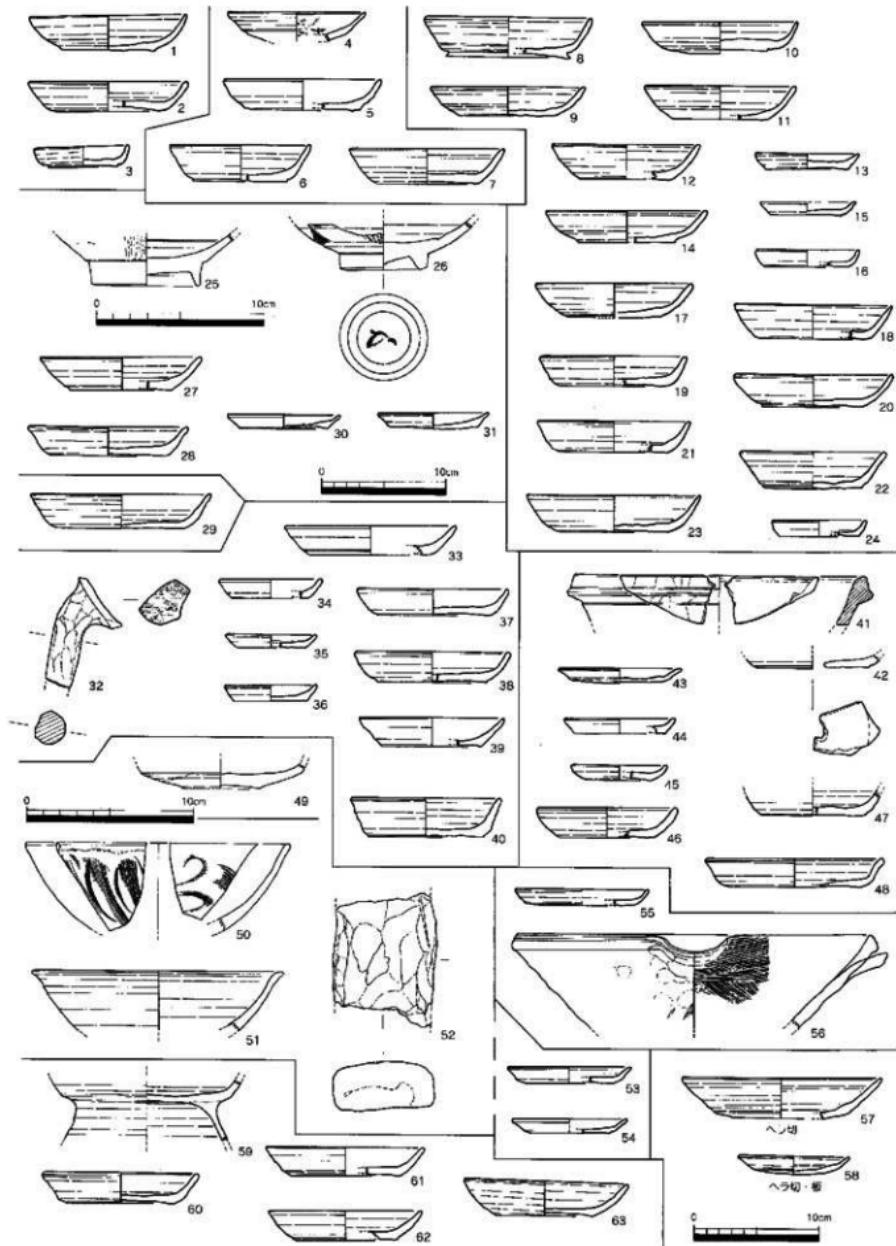


Fig35. SK1214,SK1223,SK1210,SK1219,SK1220,SK1221,SK1230他 出土遺物実測図 (S=1/3,1/4)

Tab.6 Fig.35出土遺物観察表

番号	監理番号	地区	法式	出土位置・層位	形態・類型	法式(単位cm)・内容(発見・地質)	地質	地質・外観色調		特徴	備考	
								地名	地質			
1	286	三区-面	SKH214	土耕層-底	土耕層-底	12.5	7.3	II-35	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/2灰白~ 10YR7/2-5GY7/4	無切	
2	281	三区-面	SKH214	土耕層-上層	土耕層-中	(12.7)	(8.2)	3.4	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/2灰白~ 10YR7/2-5GY7/4	無切	
3	282	三区-面	SKH214	下層	土耕層-底	7.88	8.5	1.85~	褐色	10YR7/2灰白~褐色	無切	
4	281	三区-面	SKH223	上層	見出層-底	(11.7)	(8.0)	(2.3)	10YR7/2灰白~や少部分 黒鉛を含む	10YR7/2灰白~ 10YR7/2-5GY7/4	無切	
5	293	三区-面	SKH223	中-下層	土耕層-底	(12.4)	(8.1)	2.3	褐色	10YR7/2灰白~褐色	無切	
6	486	三区-面	SKH223	土耕層-底	土耕層-底	(11.3)	(7.8)	2.8	褐色	10YR7/2灰白	無切	
7	292	三区-面	SKH223	土耕層-底	土耕層-底	(12.4)	(8.0)	2.85	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/2灰白~褐色	無切	
8	377	二区-面	SKH210	中-下層	土耕層-中	(12.4)	(9.9)	3.2	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
9	412	二区-面	SKH210	二四層-外	二四層-外	(12.2)	7.8	2.4	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切-板状圧延	
10	400	三区-面	SKH210	二四層-外	二四層-外	12.5	7.8	2.8	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
11	410	二区-面	SKH210	土耕層-中	土耕層-中	(12.1)	(7.8)	2.7	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
12	491	二区-面	SKH210	土耕層-中	土耕層-中	(11.8)	(7.8)	2.8	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
13	279	二区-面	SKH210	土耕層-中	土耕層-中	0.1	8.8	1.2	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/2灰白~褐色	無切	
14	490	二区-面	SKH210	土耕層-中	土耕層-中	(12.0)	(7.7)	2.9	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切-板状圧延	
15	276	二区-面	SKH210	中-下-下層	土耕層-底	7.6	8.6	1.0	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	外10YR7/2灰白~褐 色内10YR7/2灰白~褐 色	無切	
16	400	二区-面	SKH210	中-中	土耕層-底	(6.2)	(8.0)	9.4	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
17	400	二区-面	SKH210	中-中	土耕層-中	12.6	7.6	2.75	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
18	496	二区-面	SKH210	中-中	土耕層-中	(13.7)	(10.0)	2.8	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
19	495	二区-面	SKH210	中-中	土耕層-中	(11.0)	(8.7)	2.4	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
20	496	二区-面	SKH210	中-中	土耕層-中	(12.7)	(8.0)	2.4	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
21	492	二区-面	SKH210	中-中	土耕層-中	(11.2)	(8.9)	2.45	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
22	498	二区-面	SKH210	中-中	土耕層-中	(11.7)	(8.0)	2.8	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
23	494	二区-面	SKH210	中-中	土耕層-中	(13.6)	(8.0)	2.8	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/2-10YR7/4灰 色	無切-板状圧延	
24	489	二区-面	SKH210	上層	土耕層-底	(7.6)	(8.5)	2.3	褐色	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
25	299	二区-面	SKH210	中-中	白雲石-1-中	0.4	(9.5)	5.7	白色・1-2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	5YR7/4灰白	無切	
26	271	二区-面	SKH210	中-中	中-下-下層	0.3	(9.0)	2.7	褐色・1-2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/2-10YR7/4灰 色	無切-板状圧延	
27	505	二区-面	SKH210	中-下-下層	土耕層-中	(12.8)	(8.0)	2.7	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
28	295	二区-面	SKH210	中-中	土耕層-中	12.7	9.1	3.95	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	SV7/4灰白	無切	
29	290	二区-面	SKH214	下層	土耕層-中	14.6	10.2	2.7	褐色	外10YR7/4灰白 内10YR7/2灰白	無切	
30	284	二区-面	SKH219	上層	土耕層-中	9.0	7.0	1.1	褐色	10YR7/4灰白~褐 色	無切-板状圧延	
31	270	二区-面	SKH219	中-下-下層	土耕層-中	9.05	7.3	1.35	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
32	295	二区-面	SKH223	中-下-下層	真黄土層-足量(脚部)	(7.05)	(9.0)	2.95	褐色の後見の石英、長石を少量 含む	10YR7/2灰白~褐 色	160合?	
33	312	二区-面	SKH220	中-中	土耕層-中	(13.8)	(9.6)	2.3	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
34	311	二区-面	SKH220	中-中	土耕層-中	(8.2)	(8.2)	1.5	褐色	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
35	367	二区-面	SKH220	中-中	土耕層-底	(7.2)	(5.5)	1.05	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
36	297	二区-面	SKH220	東西ペルト	土耕層-底	(7.4)	(5.8)	1.2	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
37	229	二区-面	SKH220	北-中-下層	土耕層-中	(12.1)	(8.1)	2.1	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
38	298	二区-面	SKH220	北-中-下層	土耕層-中	(12.5)	(8.8)	2.45	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
39	298	二区-面	SKH220	東西ペルト	土耕層-中	(11.2)	(8.0)	2.3	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
40	299	二区-面	SKH220	土耕層-中	土耕層-中	(12.0)	(9.3)	2.15	褐色・1~2mmの石英、長石、 黒鉛を含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
41	310	二区-面	SKH221	溶岩鉱物-鉱	(23.2)	(24.4)	3.60		PH4.5-10YR7/4-N4/灰 色			
42	315	二区-面	SKH221	土耕層-中	(9.0)	(11)	1.0	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	板状剥離		
43	411	二区-面	SKH221	上層	土耕層-中	(9.0)	(4.2)	0.9	褐色-1~2mmの石英を多く含む わずかに含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切-板状圧延	
44	312	二区-面	SKH221	溶岩-鉱物-鉱	(12.0)	(12.8)	1.8	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切		
45	315	二区-面	SKH221	土耕層-中	(7.7)	(5.2)	2.7	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切		
46	319	二区-面	SKH221	土耕層-中	(11.0)	(5.3)	2.45	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切-板状圧延		
47	316	二区-面	SKH221	土耕層-中	(11.0)	(4.2)	2.0	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切		
48	312	二区-面	SKH221	土耕層-中	(11.2)	(5.5)	2.5	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切		
49	286	二区-面	SKH220	河原砂岩-溶岩-粘土岩-半灰岩	4.6	(1.6)	2.0	2.0Y/2灰白-褐色-黑色	9YR7/4灰白-2.0Y/2灰 色	120合?		
50	306	二区-面	SKH220	中-下-下層	溶岩-粘土岩-黑-褐色	(19.7)	(5.2)	2.05	2.0Y/2灰白-褐色-黑色	10YR7/4灰白-2.0Y/2灰 色	120合?	
51	307	二区-面	SKH220	中-下-下層	白雲石-1-中	(18)	(3.6)	0.7	灰白-褐色-黑色	9YR7/4灰白-2.0Y/2灰 色	無切-板状剥離	
52	305	二区-面	SKH220	中-下-下層	黑-褐色不透明	(8.0)	(2.5)	2.05	2.0Y/2灰白-褐色-黑色 (黒鉛?)	10YR7/4灰白-2.0Y/2灰 色	無切-板状剥離	
53	308	二区-面	SKH220	中-中	土耕層-中	(8.0)	(16.0)	1.25	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切-板状圧延	
54	306	二区-面	SKH220	中-下-下層	土耕層-中	(9.2)	(8.4)	1.1	褐色	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切	
55	344	二区-面	SKH227	土耕層-底	(10.7)	(8.7)	1.8	褐色-1mmの石英を多く含む	9YR7/4灰白-2.0Y/2灰 色	無切-板状圧延		
56	369	二区-面	SKH227	真黄土-層・口裂隙	(20.2)	(7.6)	2.5	2.5Y/2灰白-褐色-心-褐色	9YR7/4灰白-9YR7/1黑 色			
57	345	二区-面	SKH224	土耕層-中	(10.8)	(10.6)	0.2	褐色	7.5YR7/4灰白~褐 色	無切		
58	344	二区-面	SKH224	土耕層-中	(8.8)	(1.8)	1.0	褐色-1mmの石英を多く含む	9YR7/4灰白~褐 色	無切-板状圧延		
59	292	二区-面	SKH224	土耕層-溶合付	(2.0)	(0.3)	2.0	褐色-1mmの石英を多く含む	7.5YR7/4灰白~褐 色			
60	363	二区-面	SKH220	中-中	土耕層-中	(12.4)	(8.8)	2.4	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切	
61	508	二区-面	SKH220	中-中	(12.0)	(8.6)	2.2	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切		
62	508	二区-面	SKH220	中-中	(12.0)	(8.0)	2.35	褐色-1mmの石英を多く含む	10YR7/4灰白~褐 色	無切		
63	304	二区-面	SKH220	中-下-下層	土耕層-中	13.1	7.7	3.0	褐色-1mmの石英を多く含む わずかに含む	10YR7/4灰白~2.0Y/2灰 色	無切	

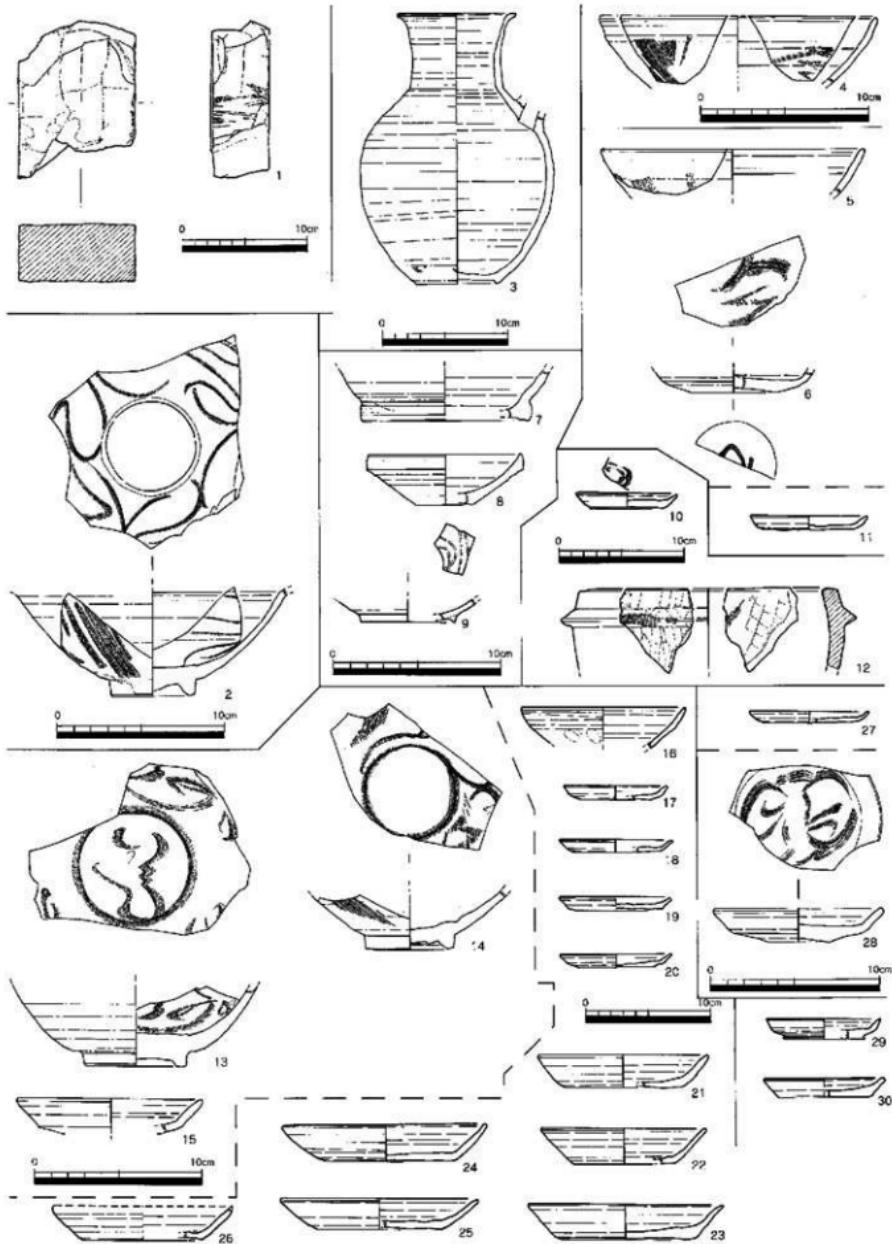


Fig36. SK1258,SK1240,SX1280,SK1270,SK1259他 出土遺物測量図 (S=1/3,1/4)

Tab.7 Fig.36出土遺物観察表

番号	登録番号	地名	出土位置・層位	器種・形状	測定(単位cm)・(内寸法mm)・性質			地土	断面色調	時期	備考	
					横幅	縦幅	厚さ					
1	301	工区1番	SK1228	標	標	1.185	0.92	0.245	N5灰・標	N5灰～10YR5/1灰黒	工具・漆塗痕、図版B-16	
2	387	三区1番	SK1229	上層	同古系骨器(大耳鹿双頭)・骨	5.0	0.45	7.0YR5/1灰白・標	N5灰・部分不整然 端に一部分が剥離している	120cm以後	-	
3	388	工区1番	SK1246	近・ベルト	中國陶器B群・水注	(3.3)	(10.8)	6.8	2.1	10YR6/2灰黄褐・標・暗赤 で丸み小枝	SIV/2灰オリーブ半透明	図版A-
4	535	三区1番	SK1251	同古系骨器(猪・牛)	(14.8)	(4.2)	N7-灰白・標	50YR7/3灰オーリーブ灰 明瞭	120cm以後	(大耳鹿 I - II)		
5	544	三区1番	SK1252	同古系骨器(猪・牛)	(15.0)	(3.8)	N7-灰白・標	50YR7/3灰オーリーブ明瞭	120cm以後	-		
6	581	三区1番	SK1258	中・下層	同古系骨器(猪・牛)・頭	(3.2)	(1.2)	N6-灰・標	50YR7/3オーリーブ透明	120cm以後	外底・基盤 図版A-14	
7	389	三区1番	SK1261	中層	同古系骨器A群・頭	(10.8)	(3.2)	7.0YR7/4灰・標・斑点	50YR7/3灰不透明	120cm以後	-	
8	299	三区1番	SK1262	中層	白石上・平底皿	(9.4)	(3.4)	3.0	7.0YR5/2灰	120cm以後	120cm以後	
9	397	三区1番	SK1264	中層	瓦器	(3.7)	(1.4)	N7-灰・標	N6-灰	120cm以後	-	
10	548	三区1番	SK1278	上・中層・底	(6.1)	(8.0)	1.2	10YR7/1灰白 中心部・心	10YR7/1灰白	-	-	
11	390	三区1番	SK1278	上・中層・底	9.2	7.3	1.1	褐色・1m後の長石少量 付	10YR7/2黒い黄緑	外底・灰状	図版A-10	
12	321	三区1番	SK1282	上層	同石器品・無	(26.0)	(22.6)	(6.8)	N5灰・1m後の長石少量 付・浮遊	N5灰・1m後・長石量 多く浮遊	外底・灰状	内底・漂移灰、図版A-4
13	320	三区1番	SK1283	同・中層	同古系骨器(猪・牛)	(4.1)	(4.8)	7.0YR7/1灰白・標	7.0YR7/3灰オーリーブ透明	120cm以後	内底・漂移灰、図版A-4	
14	323	三区1番	SK1270	近・上層	同古系骨器上層・鉢	9.3	(3.0)	N6-灰・標	7.0YR7/3灰オーリーブ透明	120cm以後	内底・漂移灰・野猪角尖端	
15	329	三区1番	SK1279	同古系骨器(猪・牛)・平底 皿	(31.0)	(2.0)	SIV/2灰・標	2.50YR7/2灰半 透明・外底・灰状・心部 付・浮遊	120cm以後	内底・漂移灰・野猪角尖端		
16	316	三区1番	SK1280	黑色土	瓦器・瓶	(15.7)	(3.7)	2.50YR7/2灰白・標	N4灰	-	-	
17	341	三区1番	SK1280	黑色土	瓦器・瓶	(8.3)	(1.2)	1.5	50YR7/4灰	50YR7/4灰	外底・灰状灰	
18	548	三区1番	SK1280	土器器・瓶	(9.1)	(6.8)	1.0	褐色	10YR6/1灰白・10YR6/1 灰	外底・灰状灰	-	
19	319	三区1番	SK1280	土器器・瓶	9.05	7.4	1.15	褐色・1m後の長石少量付 心	10YR7/2灰白・10YR7/2 灰	外底・灰状灰	-	
20	549	三区1番	SK1280	土器器・瓶	(9.0)	(6.1)	1.05	褐色・1~3mmの長石若干 付	10YR7/2灰白・10YR7/2 灰	外底・灰状灰	-	
21	590	三区1番	SK1280	黑色土	土器器・瓶	(13.7)	(9.4)	1.7	褐色・1~3mmの長石若干 付	10YR7/2灰白・ 10YR7/2灰白	外底・灰状灰	-
22	558	三区1番	SK1280	黑色土	土器器・瓶	(18.3)	(8.1)	1.9	褐色	10YR7/2灰白・10YR7/2 灰・漂移灰・10YR7/2灰白	外底	-
23	317	三区1番	SK1280	黑色土	土器器・瓶	(16.8)	(7.1)	7.8	褐色・1~3mmの石英、長石や 砂利・付	10YR7/2漂移	外底・板状灰	-
24	322	工区1番	SK1270	中・下層	土器器・瓶	16.4	(10.2)	3.05	褐色・1~3mmの長石多く 付	10YR7/4灰漂移・ 10YR7/4灰漂移	外底・板状灰	-
25	547	三区1番	SK1280	土器器・瓶	(15.9)	(8.2)	2.5	褐色・1~3mmの長石や砂 利付	10YR7/4灰漂移	外底・板状灰	-	
26	351	三区1番	SK1270	中・下層	土器器・瓶	(16.1) (2.2+ 0.7)	(8.0)	2.5	褐色・1~3mmの石英、長石や 砂利・付	10YR7/4灰漂移・ 10YR7/4灰漂移	外底	-
27	399	三区1番	SK1259	中・下層	土器器・瓶	(5.4)	(7.0)	0.8	褐色	10YR7/3漂移	外底・板状灰	-
28	592	三区1番	SK1259	同古系骨器(猪・牛)・頭	(10.1)	2.8	2.0	9YR7/1灰白・標	SIV/2灰オーリーブ半透 明・外底・生糞・灰	120cm以後	内底・漂移灰灰	
29	516	三区1番	BP1274	土器器・瓶	(9.0)	(6.3)	1.45	褐色・1~3mmの石英、長石や 砂利・付	9YR7/4灰漂移	外底・板状灰	-	
30	407	三区1番	BP1206	土器器・瓶	(9.0)	(7.0)	1.6	褐色	10YR7/2漂移灰	外底・板状灰	-	

遺物から (Fig.31-48~51、Fig.39-2,3) 、上層は15世紀代、掘削の上限が14世紀頃にある溝であろう。

SD(SK)1034は、1区で検出した溝状土坑 (Fig.12、6頁) (図版6-1~3)。第2面において SK2001として検出したものは同一であろうが、上部で覆土がかなり異なるので、生活面がかさ上げして変わっても同じ場所に溝が踏襲されたものか。遺物から、SD1034は14世紀前半を下限とし (Fig.33-2~14)、SK2001は13世紀後半 (Fig.37-9~12) であろう。

SD1240はII区北東で検出した溝状土坑 (Fig.13、6頁)。調査区の制約で全掘できていない。断面は箱形状、方位はN-47° - E。遺物の時期は古めだが (Fig.36-7~9)、層位的に13世紀以降である。

## (2) 土坑 (SK)

SK1005A (Fig.10)、SK1005B (Fig.11、5頁) (図版5-2,3) は、SD1001南側と重複して検出された。SD1001・1002を切る。はじめ同一の土坑と考えたが、1005Aが新しい。そのため遺物は大部分が1005Bのものであるが、上層では取り上げが混乱した。1005Aは30×70cmの小土坑で、遺物は少なく、上層で鍵件と蝶が出土した。1005Bは80×105cmの不規則丸方形で、完形になる鉢跡や土師器窓・皿、備前焼鉢破片などが出土した。遺物から (Fig.31-42~47、Fig.32-1~21)、15世紀前半であろう。

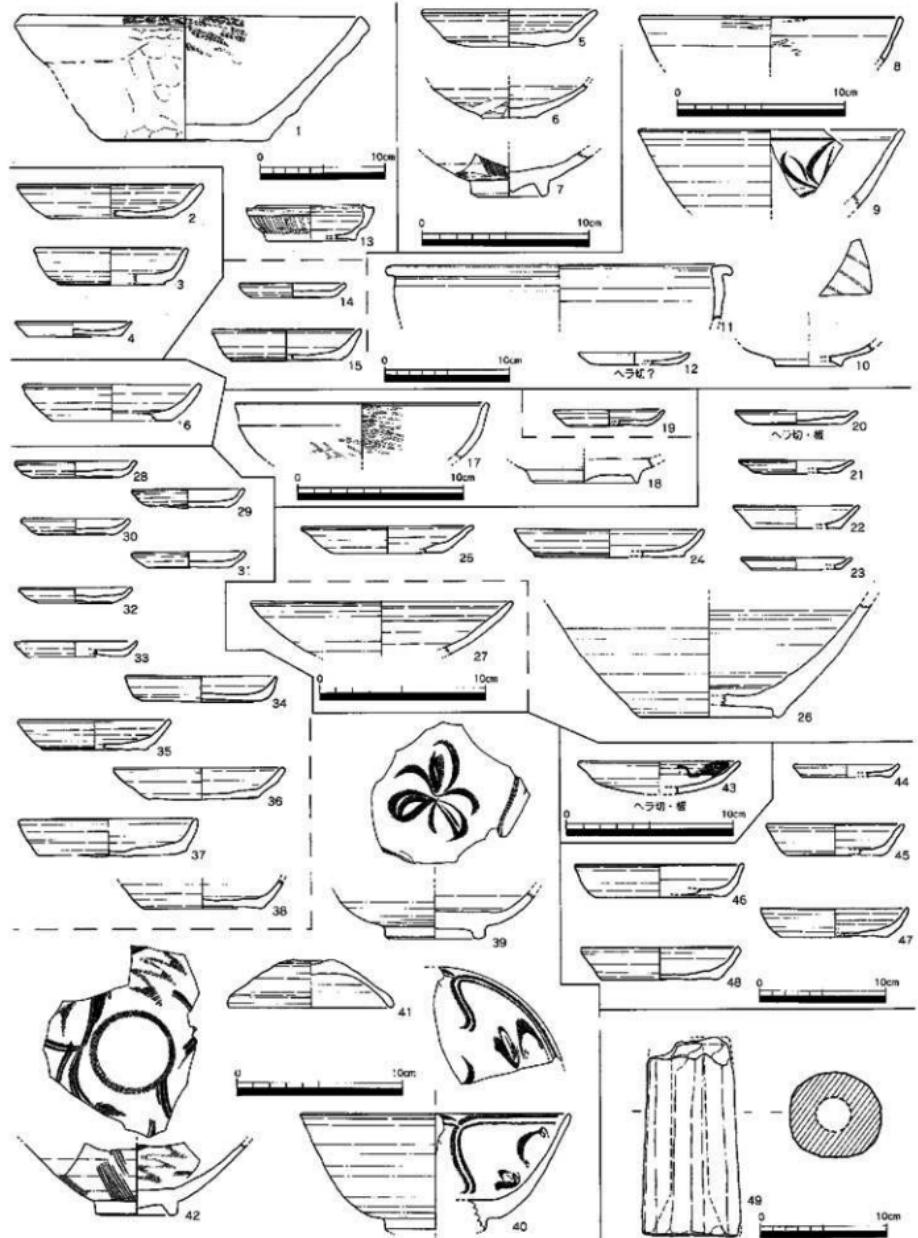


Fig37. SD1201(3), SP1213, SK2001, SK2073, SX2201, SK2216, I・II区第2面遺構出土遺物実測図 (S=1/3, 1/4)

Tab.8 Fig.37出土遺物整理表

番号	監修番号	地名	出土場所	出土位置・層位	特徴・形態	法面(年次)・DP(地質元・帶)	土名	地質	地質・外観説明	時期	備考	
									日付	既大層	新規	
1	957	三溪1層	SD1201A		瓦礫層・漂砾			13.3 10.4	1.8YR/1灰白～4N/褐	既切・板状丘陵		
2	274	三溪1層	SD1212	上層	土砂層・灰	(14.8)	9.8	2.7	漂砾・漂石が盛りむ	既切	既切	
3	480	三溪1層	SD1204		土砂層・灰	(12.2)	(8.5)	3.0	漂砾	既切		
4	276	三溪1層	SD1213	中～下層	土砂層・灰	9.2	7.3	1.2	漂砾	既切		
5	314	三溪1層	SD1226	(中)	粗粒洪积层・漂・漂砾	(9.5)	4.3	2.2	2.8YR/1灰白～4N/褐	既切		
6	389	三溪1層	SD1205		粗粒洪积层・漂・漂砾		2.2	2.2	2.8YR/1灰白～4N/褐	既切		
7	555	三溪1層	SD1226	上層	漂砾・漂石・漂・灰		4.6	0.27	1.8YR/1灰白～4N/褐	既切	既切	
8	334	三溪2層	SK2041		瓦礫・灰	(16.0)		0.85	1.9YR/1灰白～4N/褐・漂砾・砂・漂石の混合層	既切		
9	338	三溪2層	SK2051		粗粒系漂砾带・漂	(16.0)		(4.76)	1.8YR/1灰白～4N/褐	既切	内蔵・漂浮式	
10	395	三溪2層	SK2001		瓦砾・漂		(4.0)	2.1	漂砾	既切		
11	337	三溪2層	SK2001		土砂層・漂	(21.0)		(4.4)	1～2mの石英・長石わざかに漂石や漂砾	既切	既切	
12	336	三溪2層	SK2001		土砂層・灰	(16.0)		1.05	漂砾・漂石の混合層に漂石に漂砾	既切		
13	351	三溪2層	SK2073		青白岩・合子	(9.0)	0.85	(7.6)	2.15	N7/灰白・漂砾	既切	既切
14	320	三溪2層	SK2073		土砂層・灰	4.5	6.6	1.2	漂砾	既切	既切	
15	320	三溪2層	SK2073		土砂層・灰	12.5	2.85	2.5	漂砾・漂石の混合層に漂石	既切	既切	
16	326	三溪2層	SK2073		土砂層・灰	14.2	2.4	2.5	漂砾	既切		
17	527	三溪2層	SDP2075		瓦砾・漂	(15.2)		(5.5)	1.8YR/1灰白・漂・灰	既切		
18	329	三溪2層	SDP2075		漂砾・漂・灰・漂		8.5	(1.6)	N6/灰白・漂砾	既切	既切	
19	330	三溪2層	SDP2075		土砂層・灰	(16.0)	(6.0)	1.2	漂砾・1m以上の長石ごわすかに漂石	既切	既切	
20	348	三溪2層	SK2001		土砂層・灰	(9.0)	(7.0)	1.15	漂砾・1m以上の長石ごわすかに漂石	既切	既切	
21	356	三溪2層	SDP2001	土層A1層	土砂層・灰	(9.0)	(7.0)	1.1	漂砾	既切	既切	
22	349	三溪2層	SDP2001	土層A1層	土砂層・灰	(10.0)	(7.0)	1.9	漂砾・1～2mの石英・長石わざかに漂石	既切	既切	
23	329	三溪2層	SDZ201		土砂層・灰	(9.0)	(7.0)	1.6	漂砾	既切		
24	359	三溪2層	SDZ201	上層	土砂層・灰	(15.2)	(12.0)	2.25	漂砾・漂石の混合層に漂石	既切	既切	
25	370	三溪2層	SDZ201	粘土層	土砂層・灰	(19.2)	(9.0)	2.15	漂砾	既切		
26	353	三溪2層	SDZ201	土層A1層	中国陶器灰・灰・漂	(11.0)	(3.0)	2.25	2.8YR/1灰白・漂・灰	既切	既切	
27	298	三溪2層	SDZ202	漂・土・漂・灰		(7.0)		(3.0)	N6/灰白・漂砾	既切	既切	
28	374	三溪2層	SDC2216	12m, 2段下	土砂層・灰	(9.0)	(7.0)	1.35	漂砾・1m以上の石英わざかに漂石	既切		
29	373	三溪2層	SDC2216	12m, 2段下	土砂層・灰	9.0	7.0	1.6	漂砾	既切		
30	372	三溪2層	SDC2216	土層Belt-下層	土砂層・灰	(8.0)	(5.0)	1.25	漂砾・1m以上の石英わざかに漂石	既切		
31	366	三溪2層	SDC2216	土層Belt-下層	土砂層・灰	9.2	6.7	1.3	漂砾・1m以上の長石ごわすかに含む	既切	既切	
32	364	三溪2層	SDC2216	土層Belt-下層	土砂層・灰	(9.0)	(7.0)	1.2	漂砾・1m以上の石英・長石わざかに含む	既切	既切	
33	354	三溪2層	SDC2216	土層Belt-下層	土砂層・灰	(8.0)	(7.0)	1.3	漂砾	既切	既切	
34	375	三溪2層	SDC2216	12m, 2段下	土砂層・灰	12.2	9.2	2.05	漂砾・1m以上の石英・長石わざかに含む	既切	既切	
35	365	三溪2層	SDC2216	土層Belt-下層	土砂層・灰	(9.0)	(5.0)	2.3	漂砾・1m以上の石英・長石わざかに含む	既切	既切	
36	360	三溪2層	SDC2216	土砂層・灰		(12.0)	6.8	2.8	漂砾・1～2mの石英わざかに含む	既切	既切	
37	347	三溪2層	SDC2216	土層Belt-中層	土砂層・灰	(14.0)	11.0	3.0	漂砾・1m以上の石英の漂石わざかに含む	既切	既切	
38	336	三溪2層	SDC2216	土層Belt-下層	土砂層・灰	(8.0)	(2.0)	2.05	漂砾・1m以上の石英・長石わざかに含む	既切		
39	340	三溪2層	SDC2216	(23.0, 24.0)	既切・漂・土・漂	(6.0)	(1.0)	2.05	漂砾・1m以上の石英・長石わざかに含む	既切	既切	
40	361	三溪2層	SDC2216	12m, 2段下	既切・漂・土・漂	(10.0)	(6.0)	7.1	2.8YR/1灰・漂・灰	既切	既切	
41	382	三溪2層	SDC2216	土層Belt-下層	中國陶器A・灰	(10)	(5.0)	2.85	SDP2075漂砾・粘土	既切		
42	362	三溪2層	SDC2216	土層Belt-下層	既切・漂・土・漂	(4.0)	(6.0)	2.05	漂砾・1m以上の石英の漂石わざかに含む	既切	既切	
43	452	三溪2層	SDC2219		眞珠・灰	(9.0)	(6.0)	(2)	N6/灰・漂	既切	既切	
44	542	三溪2層	SDP2220		土砂層・灰	(8.0)	(6.0)	1.0	漂砾・1m以上の石英・長石わざかに含む	既切		
45	528	三溪2層	SDP2220	上層	土砂層・灰	(10.0)	(7.0)	2.8	漂砾・1～2mの石英・長石わざかに含む	既切		
46	377	三溪2層	SDC2220	既切-下層	土砂層・灰	(13.0)	(10.0)	2.05	漂砾・1～2mの石英・長石わざかに含む	既切		
47	342	三溪2層	SDC2220		土砂層・灰	(11.7)	(8.0)	2.25	漂砾・1～2mの石英・長石わざかに含む	既切		
48	378	三溪2層	SDC2220		土砂層・灰	12.8	7.2	2.8	漂砾・1～2mの石英・長石わざかに含む	既切	既切	
49	254	三溪2層	SDC2220	中	土砂層・漂石	7-9	(10.0)		1.8YR/1灰白～4N/漂石	既切	既切	

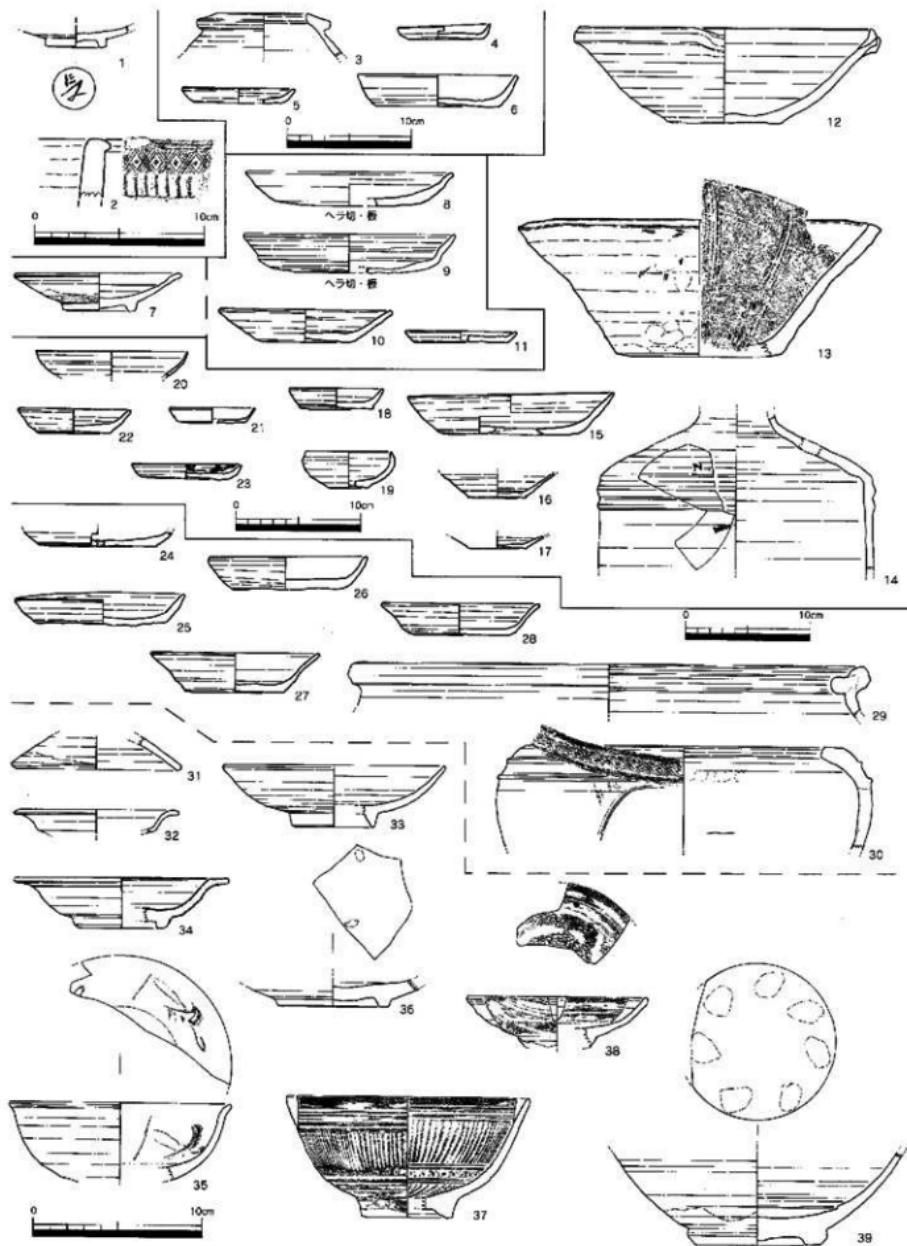


Fig38. 包含層出土遺物実測図 (S=1/3.1/4)

Tab.9 Fig.38出土遺物概要表

番号	施設番号	地区	出土位置・層位	種類・器形	法面(単位m)・内は復元・無 寸法(最大幅 厚さ)	地質	跡・外見色調	特徴	備考
1	249	二ノ北 寺	170層	白磁・瓶?		3.7 (1.38)	NH/灰白・やや黄褐色・暗かな風 化色・薄青色	EYR/1灰白透明白	高含内窓
2	248	二ノ北 寺	170層	瓦質土器・火炎		3.8 (1.65)	BYT/1灰白・やや黄褐色?	2.5M厚/1場底	
3	445	三ノ北 寺	170層	中空圓筒形瓶?	10.8	2.0 (2.0)	LSV/1灰白	2.5M厚/1場底	
4	472	三ノ北 寺	170層	土作器・皿	7.5	1.2 (1.7)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/1灰白透明白 内: BYR/1-1.2mm	底部磨平・途中・切削
5	504	三ノ北 寺	170層	土作器・瓶	6.1	2.0 (2.0)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/1灰白透明白	瓶切
6	473	三ノ北 寺	170層	土作器・瓶	11.0	2.0 (1.60)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/1灰白透明白 内: BYR/1-1.2mm	瓶切・瓶底压痕
7	488	三ノ北 寺	170層-2層	白磁に青・青白口付	16.8	4.3 (2.2)	WH/灰白・青白	EYR/2灰白透明白	114m-124m 壁面S-5
8	487	三ノ北 寺	170層-2層	土作器・瓶	16.8	4.3 (2.2)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白 内: BYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
9	486	三ノ北 寺	170層-2層	土作器・瓶	17.7	2.15 (2.0)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
10	470	三ノ北 寺	170層-2層	土作器・瓶	14.0	2.0 (1.60)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白 内: BYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
11	471	三ノ北 寺	170層-2層	土作器・瓶	16.0	2.0 (1.70)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
12	446	三ノ北 寺	170層	青白釉圓筒形器・片口 鉢	24.2	9.3 (2.0)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
13	447	三ノ北 寺	170層	青白釉・圓筒	29.0	13.0 (3.2)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
14	509	二ノ北 寺	170層	馬蹄・コンフラ底		Q22 (10.0+ 3.05)	LSV/1灰白・青白	PSV/1灰白透明白-1.2mm の石英・長石石子を含む EYR/2灰白透明白 内: BYR/4灰白透明白 2.5M厚	180cm~後 遺物投入か?
15	440	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶	16.5	11.1 (2.4)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
16	508	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶		4.6 (2.0)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
17	437	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶		4.7 (1.95)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
18	442	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶	7.6	5.9 (1.8)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切
19	436	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶?	18.9	7.4 (2.4)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切
20	448	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶	18.6	7.4 (2.4)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切
21	439	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶	18.9	7.4 (2.4)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
22	442	二ノ北 寺	170層	土作器・皿	9.0	2.0 (1.8)	LSV/1-1.2mmの長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白 内: BYR/2灰白透明白	瓶切
23	441	二ノ北 寺	170層	土作器・皿	8.8	7.1 (1.8)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白 内: BYR/2灰白透明白	瓶底压痕・瓶切・瓶底压痕
24	438	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶		10.0 (1.8)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶底压痕・瓶切
25	433	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶	13.8	10.1 (2.7)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白 内: BYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
26	434	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶	12.8	8.5 (2.0)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切
27	436	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶	11.6	8.25 (2.0)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	瓶切・瓶底压痕
28	435	二ノ北 寺	170層	土作器・瓶	12.3	7.8 (2.0)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/1	瓶切・瓶底压痕
29	426	二ノ北 寺	170層	中空圓筒形・Y字型口縁 瓶	41.0	14.3 (2.0)	LSV/1-1.2mmの長石石 子を含む	PSV/2灰白透明白-1.2mm の石英・長石石子を含む EYR/2灰白透明白	180cm
30	451	二ノ北 寺	170層	瓦質土器・火炎	29.0	10.25 (2.0)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	罐底S-11
31	443	二ノ北 寺	170層	中空圓筒形・口縁	48.0	18.0 (2.0)	LSV/1-1.2mmの石英・長石石 子を含む	EYR/2灰白透明白	罐底S-12
32	459	二ノ北 寺	170層	白磁・小盤	47.0	14.0 (2.0)	NE/白・薄青	2.5M厚/1灰白透明白	罐底S-13
33	429	二ノ北 寺	170層	白磁・萬葉文	13.4	8.0 (1.8)	SYV/1灰白・薄青	EYR/2灰白透明白-1.2mm の石英・長石石子を含む	罐底S-14
34	441	二ノ北 寺	170層	鐵灰系青磁立罐・瓶	11.0	5.6 (1.8)	NE/灰白・薄青	帶青を帯びた青磁色透 明白	180cm~A 罐底S-15
35	462	二ノ北 寺	170層	鐵灰系青磁立罐・瓶	13.0	5.6 (1.8)	NE/灰白・薄青	EYR/1灰白透明白	带青土罐
36	488	二ノ北 寺	170層	鐵灰系青磁立罐・瓶	14.0	11.0 (1.8)	NE/灰白・薄青	EYR/1灰白透明白	带青土罐
37	454	二ノ北 寺	170層	青白釉・碗	14.0	5.6 (1.8)	SYV/1灰白・薄青	罐底・青白の色を含む シルバー	180cm~17 D
38	457	二ノ北 寺	170層	青白釉・碗	10.0	5.6 (1.8)	NE/灰白・薄青	2.5M厚/1灰白透明白 内: BYR/1灰白透明白	罐底S-18
39	495	二ノ北 寺	170層	未分類青磁・鉢(中国)	8.3	5.7 (1.8)	SYV/1灰白・薄青	2.5M厚/1灰白透明白	罐底S-19

SK1008は、第1面検出時には不明瞭であったが、第2面へ下げる途中で明瞭化したもので、他の第1面検出遺構より層位的に古い(Fig.15、6頁)(PL.5-4)。SD1001に切られ、半分は試査区外となる。獸紋も出土している。遺物から、12世紀後半～末か(Fig.32-22~26)。

SK1022は、60×100cmの不整梢円形土坑(Fig.15、6頁)。上層で礫を集中して検出。14世紀代か(遺物はFig.32-38,41)。SK1067とSK1054も上層で礫が出土した土坑(Fig.18、7頁)。いずれも細長い平面形。1067が新しい。SK1054の出土遺物が多く、陶器群は古いものも含むが、土師器の法量分化(环に大小がある)から14世紀代か(Fig.34-1~18)。Fig.34-8,9の瓦質の釜が伴えばさらに新

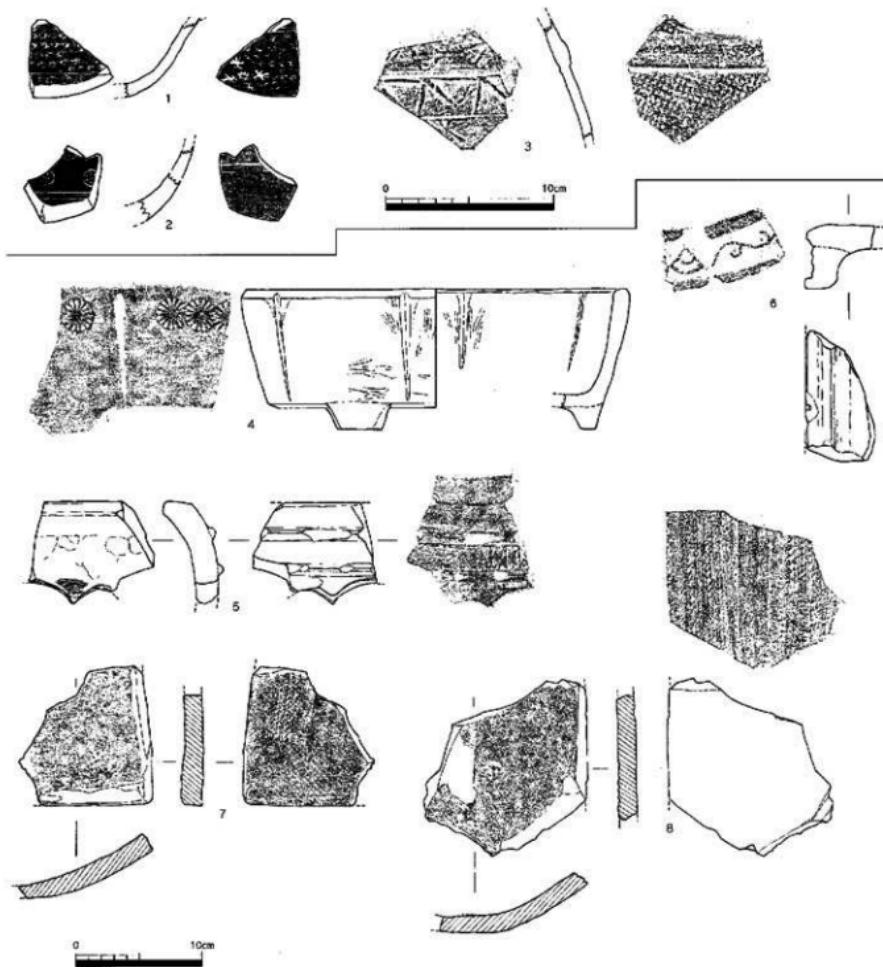


Fig39. 各遺構・包含層出土遺物実測図複数(1) (S=1/3,1/4)

しいか、疑問である（現場での洗浄時または整理時の混乱か）。なおこれらの土坑は、廃棄された柱穴か。

SK1065、SK1066は1区西側で検出した土坑（Fig.17、7頁）。はじめSK1065を1066の覆土の一部と考えたが、別遺構のようである。SK1066は径3mの不整形形で井戸とを考えたが、深さ60cmで底になった。出土遺物は少なく（Fig.34-19,20）、遺構の時期は限定できない。

SK1011は、SD1001に切られる径1.5m前後の不整形形土坑。複数の遺構の重複の可能性もある（東

側はSK1010と重複するが同一とした)。出土遺物は14世紀前半を含むので(Fig.32-42~44)、SD1001の一時的な埋没時に營まれ、掘り直しの際に切られたものか(SD1001は13世紀後半の掘削)。

**SK (SX) 1280**はII区西側で検出したが、周囲の1面邊縁に切られ、2面へ下げる途中でプランが明確化した不整形土坑(Fig.20、7頁)(図版6-7,8)。なお当初は、中心の暗褐色土部分をSK1270とし

Tab.10 Fig.39出土遺物観察表

番号	整理番号	地区	出土位置	出土位置・層位	銘文	形質(直径mm)	内は鋭角・外 口は(最大径)・周縁 斜度	地土	地・外表面質	時間	備考
1	403	II区1面	SK1202	中層	高麗半朱通寶・銅	(4.75)	2.976/1.486・鋭角 内は(最大)	粘土	10P/3.5灰褐色		
2	340	I区1面	SD1117	上層	高麗半朱通寶・銅	(4.65)	2.976/1.486・鋭角 内は(最大)	粘土	9.978/1.178ノーブル銀 内は(最大)	140~180	
3	342	I区1面	SD1117	東・キ一一下層	韓國赤斑志賀土器・銅	(7.25)	5.575/1.486・鋭角 内は(最大)	粘土	9.575/1.178ノーブル 内は(最大)		
4	255	II区	南半	14~17C層	五代土器・古銭	(21.5)	12.8	11.8	6.971/1.486・鋭角 内は(最大)	10P/3.5灰褐色	鐵鋤型・スタンプ文
5	259	I区	南半	14世紀	五代土器・古銭	(8.2)	8.7	8.1	5.171/1.486・鋭角 内は(最大)	10P/3.5灰褐色	鐵鋤型・スタンプ文
6	251	I区	北半	14世紀	新平瓦	灰 (8.5)	7.62	6.81	5.672/1.486 内は(最大)	10P/3.5灰褐色 内は(最大)	
7	271	II区2面	SK1201		平瓦	灰 (11.2)	9.65	8.2	6.971/1.486・鋭角 内は(最大)	10P/3.5灰褐色	
8	351	I区1面	SK1087	N层	空瓦	灰 (14.15)	12.45	11.45	12.971/1.486・鋭角 内は(最大)	10P/3.5灰褐色 内は(最大)	



1. 20001  
大觀通寶  
I区1面SK1011キ一一下層



2. 20002  
寛永通寶(新)  
I区北半1面上17C~18C層



3. 20003  
治平元宝  
I区南半1面上北半17C



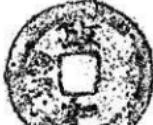
4. 20004  
經元通寶  
I区南半1面上北半17C



5. 20005  
元祐通寶  
II区1面SD1201-3北上面



6. 20006  
開元通寶  
II区1面 SK1259西



7. 20007  
紹聖通寶(折二錢)  
II区1面 SP1247



8. 20008  
聖宋元宝  
II区1面上各合開B



Fig.40. 各遺構出土銅錢 (S=1/1)

Tab.11 Fig.40出土銅貨一覽

番号	整理番号	地区	出土遺物	出土位置・層位	銘文	初鑄年			法量(mm)			備考
						時代	元号	西暦	径	厚	重量(g)	
1.20001	I区1面	SK1001	中~下層	大觀通寶	北宋 大觀元年	1107年	25.0	1.5	2.22			
2.20002	I区	北半	17c~18c	寛永通寶	江戸 元禄10年	1697年	24.4	1.4	3.30	新寛永		
3.20003	I区	南半	1面直上包含層	咸平通寶	北宋 咸平元年	998年	22.7	1.3	2.21			
4.20004	I区	南半	1面直上包含層	聖宋元宝	北宋 紹聖元年	1094年	24.0	1.4	3.92	行書体		
5.20005	II区1面	SD1201B	上層	開元通寶	南唐	960年	24.6	1.3	3.13			
6.20006	II区1面	SK1259	西ベルト	開元通寶	南唐	960年	24.5	1.4	3.57	1/4次掘		
7.20007	II区1面	SP1247		政和通寶	北宋 政和元年	1111年	30.2	1.5	7.05	折二錢		
8.20008	II区	1面上	A層	聖宋元宝	北宋 靖康建炎元年	1101年	23.8	1.5	3.48	行書体		

て分けたが同一であろうと最終的に判断した。残った覆土の暗褐色粘質土には、骨片が腐食化したようなものがいくつも含まれていた。遺物から (Fig.36-13~26) 、12世紀後半~末。

SK1214は、径1.2m前後の平面不整形で、底面がすぼまる土坑 (Fig.21、7頁)。上師器の杯の法量と形態から (Fig.35-1~3,29) 、14世紀前半か。SK1210は、径1.0m前後の不整円形の土坑 (Fig.22、7頁) (図版5-5)。下層で残りの良い土師壺が出土。出土遺物はほとんどが土師器壺類で、13世紀後半~14世紀初頭か (Fig.35-6~24)。SK1230 (Fig.23、7頁) (図版6-5) は、径60×90cmの横円形土坑。中層で土師器壺類を出土。遺物から (Fig.35-40,59~63) 、13世紀末~14世紀前半か。SK2216

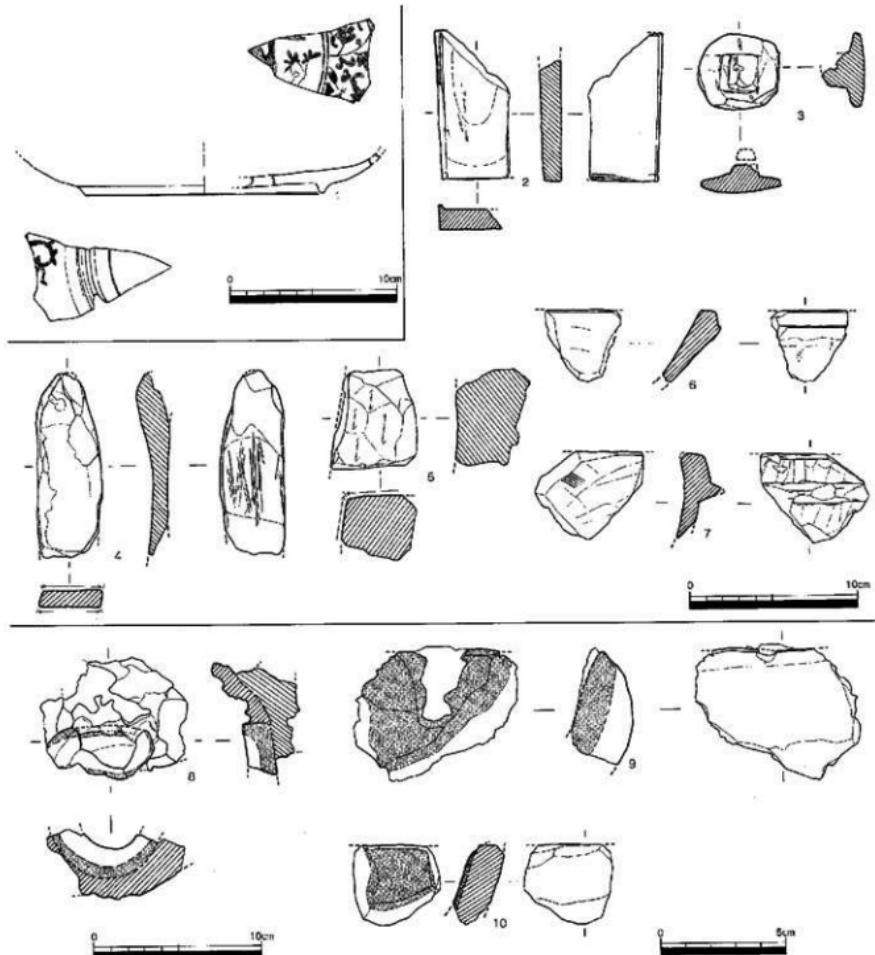


Fig41. 各遺構出土遺物実測図補遺(2)\*石製品、鍛造関係遺物ほか (S=1/3,1/2)

Tab.12 Fig.41出土遺物観察表

番号	監理番号	地区	出土場所	出土位置・層位	種類・形態	重量(単位g)・内寸法(元・既)			地土	表面色調	特徴	備考
						高さ	幅	奥行き				
1	570	I区1面	SK1022	中層	鉄筋系錫付錫盤・皿		(14.2)	(2.45)	NB・灰白・構造	2.5Gy/1灰白色錫盤	170cm-後 外観変質なし、内部色差 は見出せない	
2	40001	I区	1面上	6層	錫	錫	14.85	8.8	1.5		1.5Gyの石英粉を含む、 内部で状態が出来た。 かわらに錫板錫盤	圧力変形跡の一種か
3	40002	I区	1面上	八層	溶岩點付錫	錫	4.9	6.4-9	2.0-2.4	NB・灰白		石頭錫再加工
4	40003	I区1面	SK1029	中層	錫板	錫	10.9	6.1-11	1.65	NB・灰白		錫板錫再加工
5	40004	I区1面	SK1029	下層	錫板	錫	12.25	6.5	1.5		1.5Gyの石英粉を含む、 錫板錫	石頭錫再加工は珍る 外観変形なし
6	40005	I区	1面上	9層	唐津製錫・鉢	錫	14.95		(4.3)		1.5Gyの石英粉を含む、 錫板錫	錫板錫やや変形で錫板 一端が錫板
7	40006	I区	8号古墳	16-170層	唐津製錫・鉢	錫	14.5		(5.3)		NB・灰白/2灰錫 内寸/灰白	外観や錫板基
8	30001	I区1面	SK1017		錫物口・鉢体	錫	17.2	12.1	(3.8)		以口-3cm後ろの石英粉多く 含み少。先端部は赤茶色	伊勢-外觀に錫板を巻き 内寸/重さ27.4g
9	30002	I区1面	SK1019	下層	錫板	錫	24.6		(6.45)		3cm前後の石英粉多く含み少 後端-内部には錫板を巻き	内寸/17.5cm/2灰錫 内寸/29.5cm/2灰錫
10	30003	I区1面	SK1027		錫物-鉢?	錫	13.3		(3.7)		スリット入り錫・内寸16cm 後端の芯に錫板巻き	外觀に錫板でもない

Tab.13 判読不明出土銅貨・銀製品一覧

監理番号	地区	出土場所	出土位置・層位	種類	初期年			重量(g)			備考
					時代	元号	西暦	径	厚	重量(g)	
20009	I区1面	SD1002		錫鉄破片	不明	不明	不明	25.9	1.2	1/4欠損	
20010	I区1面	SK1005A	下層	錫鉄破片	不明	不明	不明	26.4	1.7	2/3欠損	
20011	I区1面	SK1005B	中~下層	錫鉄破片	不明	不明	不明				小破片
20012	I区1面	SK1034	上層	更矢通鑿	江戸	元禄10年	1687年	25	1.6	2.42	新寛永
20013	I区1面	SD1117	上層	錫鉄破片	不明	不明	不明	25.4	1.5	2.34	1/2残存
20014	I区1面	SP1075	上層	錫鉄破片	不明	不明	不明	24.4	1.2	2/3残存	
20015	I区1面	SK1228	層	錫鉄破片	不明	不明	不明	21.5			小破片
20016	I区1面	SK1237	上層	錫鉄	不明	不明	不明	31.6		16.19	錫鉄
20017	I区1面	SK1245	残	錫鉄	不明	不明	不明	25	1.2	4.35	
20018	I区1面	SK1245	残	錫鉄破片	不明	不明	不明				小破片
20019	I区1面	SK1290		坂田作銅製品				長25.3	幅13	2.41	
20020	I区2面	SE2222	中~下層	錫鉄	不明	不明	不明				小破片
20021	I区	南北	1面突出	錫鉄破片	不明	不明	不明			1.8	1/3残存
20022	I区1面上	包含層	1面上	錫鉄	不明	不明	不明	27.4	1.9	4.76	錫鉄
20023	I区	1面上	A層	錫鉄	不明	不明	不明	26.7		5.45	錫鉄
20024	I区	1面上	A層	錫鉄	不明	不明	不明	28.2		7.67	錫鉄
20025	I区	1面上	A層	不銹鋼鋸鋏				長31.3	幅5.6	0.72	
20026	I区	1面上	B層	錫鉄	不明	不明	不明	26	2	3.89	
20027	I区	1面上	B層	錫鉄	不明	不明	不明	25.6	1.6	1/2残存	
20028	I区1面上	南北半包層	16-170層	錫鉄破片	不明	不明	不明				小破片
20029	I区1面上	南北半包層	17-180層	錫鉄破片	不明	不明	不明	23.7	1.5	1/3残存	

Tab.14 備造關係遺物一覧

監理番号	地区	出土場所	出土位置・層位	種類・形態	採取量(単位g)			地土	表面色調	特徴	備考
					高さ	幅	奥行き				
20030	I区1面	SD1082		錫板	1.76	1.74	1.08	5.00			
20031	SD1082			錫板	2.77	2.44	1.47	15.94			
20032	I区1面	SD1083	中~下層	錫板	2.16	1.76	2.09	17.85			
20033	I区1面	SD1088	中~下層	錫板	1.63	0.83	1.77	2.46			
20034	I区1面	SD1019	下層	錫板	1.95	2.5	1.02	12.44			
20035	I区1面	SK1246	層	錫板	3.79	3.68	2.18				小片となる
20036	I区1面	SK1249	層	錫板	2.08	2.18	1.2	4.99			
20037	I区1面	包含層	1面上	錫板	1.65	2.91	1.16	12.6			
20038	I区1面	SD1081		錫板口	3.79	3.68	2.18				
20039	I区1面	SD1081		錫板口	3.63	3.5	2.65				
20040	I区1面	SD1022-04-05	上層	錫板口	6.49	6.29	1.98				
20041	I区1面	SD1022-04-05	中~下層	取瓶	2.69	2.61	1.74				
20042	I区1面	SD1022-04-05	中~下層	錫板口	5.32	6.08	2.14				
20043	I区1面	SK1218	上層	取瓶	2.18	2.05	1.91				
20044	I区1面	SK1229	中~下層	錫板口	4.7	5.58	2.15				
20045	I区1面	SD1049	上層	取瓶?	7.5	6.07	3.47	102.44			
20046	I区1面	SK1229	西ベルト	取瓶?	8.14	6.02	4.59	144.82			
20047	I区1面	SK1249		取瓶	1.87	2.32	7.7				
20048	I区西半	1面上	包含層	錫板口	2.48	2.5	1.15				
20049	I区西半	1面上	包含層	錫板	2.52	2.54	0.97				
20050	I区1面	SK1249		取瓶	1.77	2.36	1.42				
20051	I区1面	SK1249		取瓶	4.58	5.38	2.4				
20052	I区北半	1面上	包含層	錫板	2.58	2.77	2.37				
20053	I区北半	1面上	包含層	錫板	3.48	3.3	1.42				

は、1面でSK1228として検出していたが、攪乱でプラン不明瞭であったので2面から明確化した土坑 (Fig.24、8頁) (図版6-6)。径1.4mの円形で、断面は筒状。遺物が多く出土し、口径12cm代と13.5cm以上の環があり、層位的状況も考え14世紀初頭前後か (Fig.35-50~54、Fig.37-28~42)。陶磁器は古いものが混入するので多数の土師器の時期が問題。土師器環・皿の大宰府編年（例言参照）は、13世紀後半以降には博多へ通用するのは問題がある。博多では法量分化や形態に異なる傾向がある（福岡市報告書第668集「博多76」42頁以降参照）。

SK1221は、100×190cmの浅い壺円形土坑 (Fig.25、8頁) (図版5-6)。若干の獸骨が出土。遺物から (Fig.35-41-48)、14世紀中頃前後か。SK1219は、東側途中にテラスがある115×130cmの壺円形土坑 (Fig.28、9頁)。遺物から (Fig.35-25~28,30,31)、難しいが13世紀末~14世紀初頭頃か。

#### (3) 井戸 (SE)

SE2222は、SK1005Bの掘削後にはほぼ重複して下部を掘ったもの (Fig.14、6頁) (図版5-7)。径1.3×1.4mの円形、深さ1.3m以上。湧水はほとんど無かったが、他の遺構より深さが顕著で、井戸であろう。井戸側は不明である。遺物は少なく、土師器環から13世紀中頃前後か (Fig.32-30-32)。SD1001との関係は、上部にSK1005Bがあるため不明瞭であったが、SD1001の掘削以前と考えられる。

#### (4) その他の遺構

SX2201・2202はII区第2面東側で検出した整地状遺構 (Fig.26、8頁) (図版6-9、7-1,2)。上面が標高2.2m前後の厚さ10cm前後のシルト層が、1.5m径範囲で不整形に広がる。2201は焼土混じりの黄色系で、2202は炭化物の多い灰褐色～褐色系であるが、両者は一連であろう。出土遺物は少ないと、12世紀前半とみられる (Fig.37-20-27)。シルト面直上に平瓦片が一片あったが、数量がある訳ではなく、これら整地が寺院址などと結びつくわけではなきようである。

SX2281は、第2面の設定レベルの砂の下で検出したもの (Fig.27、8頁)。灰黄褐色細砂シルトに炭粒や遺物小片が不整形に分布 (厚さ10cm弱)。遺物はごくわずかだが、12世紀前半ないしそれ以前か。

#### 4. 出土遺物

出土遺物は、パンケース中箱で40箱前後の総量があり（小箱に整理して60箱前後となった）、中世から近世前期までの輸入陶磁器、国産陶磁器、土師器（環・皿）、土師質土器（鍋・鉢）、瓦質土器（火舎・鉢など）、瓦器、瓦、鉄製品、銅錢、銅製品鋳造関連遺物（銅滓、繩羽口、取瓶、鋳型）、獸骨などがある。獸骨には鯨・イルカ類とみられるものがや目立って出土した。包含層中の近世前期を除き、遺物の時期のピークは13~14世紀のものである。傾向としては、包含層中を含めて、15世紀後半から16世紀末までの遺物は比較的少ない。出土遺物の詳細については、Tab1~14の遺物観察表を作成、掲載したのでそれを参照されたい。また、主要遺構 (Fig.6~29) の遺物の時期的な問題についてはすでに



Fig42. 博多第129次調査出土動物遺存体(1)

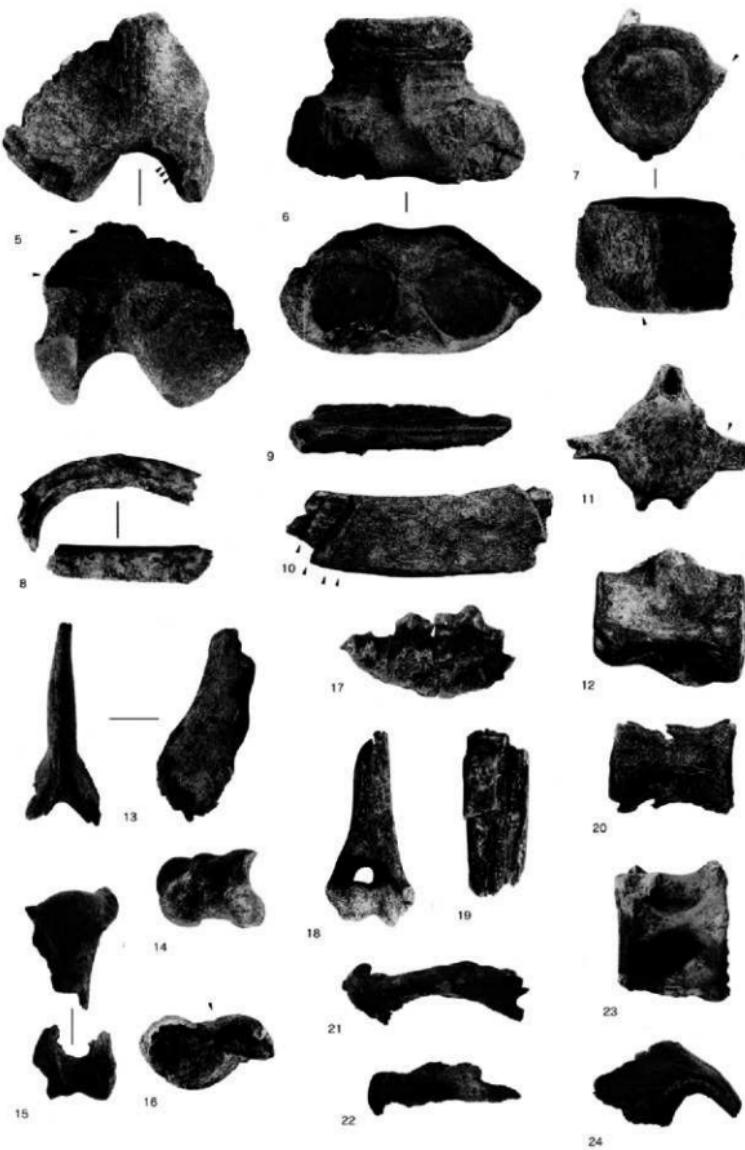


Fig43. 博多第129次調査出土動物遺存体(2)

- 5 イルカ頭蓋骨高等部
- 6 イルカ・クジラ類環椎
- 7 イルカ椎骨
- 8 イルカ類肋骨か
- 9 イルカ類下顎骨片
- 10 イルカ類肋骨

- 11 イルカ椎骨
- 12 イルカ・クジラ類推骨
- 13 イノシシ椎骨棘突起
- 14 イノシシ指骨
- 15 シカ上腕骨
- 16 シカ蹠骨

- 17 イヌ頸骨片
- 18 イヌ上腕骨
- 19 ワマ下顎歯
- 20 ブリ椎骨
- 21~24 マグロか

造構の項で説明した。Fig.38(26頁)以下には包含層出土遺物を掲載したが、II区の「A層」は、当初の動取り面（「調査の経過」および「調査の概要」参照）-40~60cmの層（Fig.5の土層③の4層下部から5層）、「B層」は同じく-60cm以下から第1面検出までの層（上層③の6~8層）である。Fig.40には出土銅鏡の拓影を掲げたが、同化に至らなかったものをTab.13に掲載した。Fig.41-2~7は石製品の補遺を、Fig.41-8~10には銅製品鋳造関係遺物を同化掲載した。鋳造関係遺物については、報告書作成中にある程度まとまっていることが判明したので、Tab.14の表を作成した。14世紀の造構から近世前期の包含層まで含まれるので、継続的な工房が隙地にあった可能性がある（第2面造構が2点あるが、1面からの混入か遊離した遺物である）。また、陶磁器では高麗から朝鮮王朝のものが散見されるのが注目される（Fig.30-26、34-21、38-36~38、39-1~3）。

### 第3章 博多遺跡群第129次調査出土動物遺存体について

第129次調査では2cm角以下の小破片を除いて91点の骨が出土した。調査時に上塙の洗浄や、篩（7%）による選別などは行っていない。91点中哺乳類が最も多く89%を占める。その他は魚類が10%、鳥類はわずか1点の出土である（以下のゴシックの番号は、32~33頁のFig.42-1~4、Fig.43-5~24を参照）。

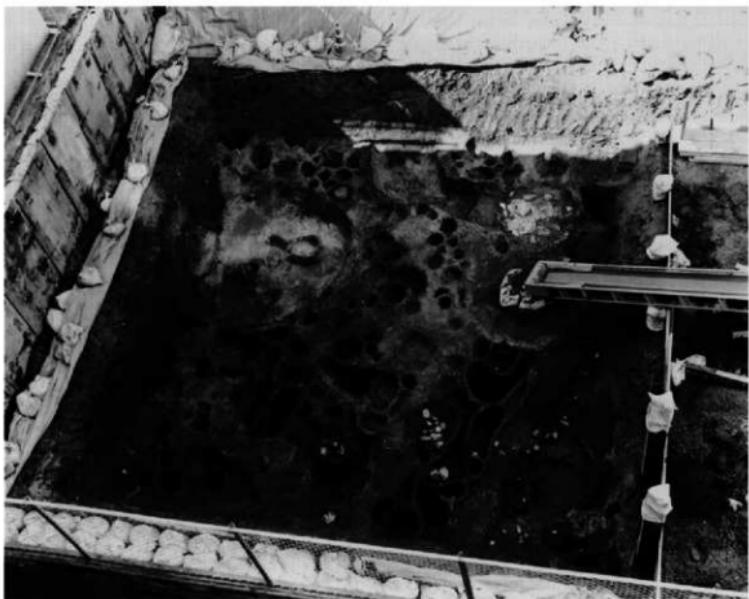
①魚類は、タイ類と大型魚類（マグロ）が出土した。SX2201ではタイ類、SD1201からは大型魚類の内臓骨が出土している。現在3枚におろす時と同じように、胸鰭部分で切り落とした後、頭だけ廻棄したものと思われる。②哺乳類は、イルカ・クジラ類、イヌ、イノシシ、シカ、ウシ、ウマが出土した。出土点数はイルカ・クジラ類が圧倒的に多く哺乳類中の59%を占める。以下、各種類について述べる。イヌは、断定できないものも含めると5点が出土しており、哺乳類中で6%を占める。そのうち歯と歯槽部分が2点出土しているが、そのうち下顎骨はM1かかなり咬耗しており老齢であることがわかる。細かな破片が多く解体痕などは確認できなかった。イノシシは、6点出土しており哺乳類中で7%を占める。下顎骨や肩胛骨など解体時に廻棄される部分が出土した。上腕骨にはイヌの咬痕がみられる。イルカ・クジラ類は、48点出土したうちの75%が椎骨である。SK1221やSD1201の他に包含層中からも数個まとまって出土することから、他の調査地点と同様に椎骨数割合のブロックで消費地に持ち込まれている。調査区全体をみると、腰椎や胸椎と思われる椎骨もあるため、特定の部位のみではなく頭から尾近くまで同じようなブロックにして消費地に持ち込んだ可能性がある。椎頭・高の関節面に頸繋にみられるナタ痕は、ブロックに切断したときについたものと思われる。頭蓋骨や環椎の出上例もあり全身が持ち込まれた個体もあることが判る。5は両面にナタの痕跡がみられ、10も両端を切断されている。シカは、哺乳類中の10%を占める。距骨や手舟・中足骨など解体時に廻棄されやすい部分が含まれることから近くで解体されたと思われる。1はシカの中手・中足骨裏と思われる管の破片で、現状で長さ3.8cmを測る。2・3はシカの角片である。断面にノコギリの痕跡がみられる。2は高さ1.4cm、幅1.3cm、3は高さ1.8cm、幅1.5cmを測る。4は海棲哺乳類の骨片である。左上を四角く切り右側が柄状を為す。16の距骨は細かな解体痕がみられる。またノコギリによる切断痕がみられる角の小片が、SD1201やSK1269、包含層から出土しており、骨角製品製造工房が近くに存在したものと思われる。（大規模事業等担当課 屋山 洋）

### 第4章 おわりに

すでに紙面もないが、まずは挿図と説明記述のページが総集の不手際から（遺物の掲載を多くしたためであるが）大幅に食い違ってしまい、非常に分かりにくい報告となつた点についてお詫び申し上げたい。本調査では、恵浜の街場が隆盛化する13~14世紀の濃密な造構を検出し、当時の街割方位を示す溝を検出した。恵浜の他の地区と整合しない部分もあるが、太閤街割以前の実態を示すものと考えたい。



1. I 区第1面遣構換出状況(南から)



2. I 区第1面遣構掘削状況(南から)



1. I 区第1面遺構検出状況(北から)

2. I 区第1面遺構掘削状況(南から)



3. I 区第2面遺構掘削状況(南から)



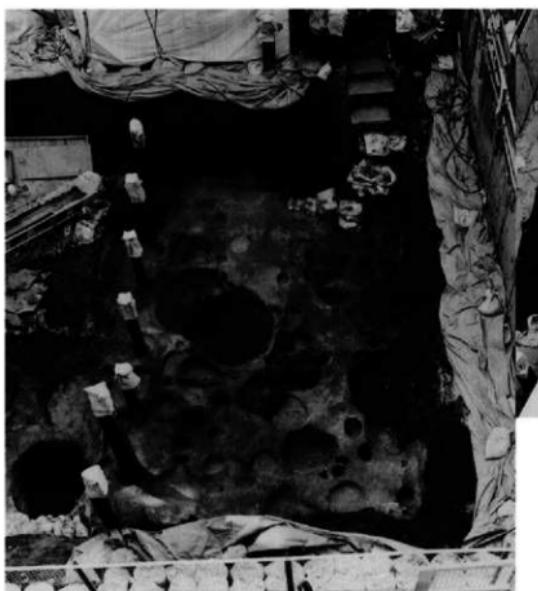
4. I 区第2面遺構掘削状況(北から)



1. II区第1面遺構掘削状況(南から)



2. II区第1面遺構掘削状況(北から)



3. II区第2面遺構掘削状況(南から)



4. II区第2面遺構掘削状況(北から)



1. SD1001・SD1002 上層遺物出土状況(南から)



2. SD1001・SD1002 上層中央遺物出土状況(東から)



4. SD1201-A区土層(北から)



3. SD1001 南側土層(北から)



5. SD1201-B区土層(北から)



6. SD1201-B区遺物(獸骨他)出土状況(南から)



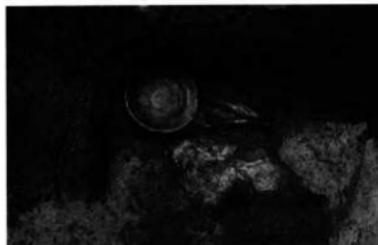
7. SD1201-B区獸骨出土状況近景(南から)



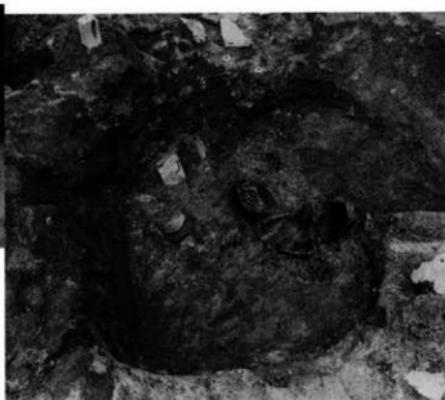
1. SD1201 完掘状況(南から)



2. SK1005B 遺物出土状況(北から)



4. SK1008 遺物出土状況(北から)



3. SK1005B(下層) 遺物出土状況(北から)



5. SK1210 遺物出土状況(西から)



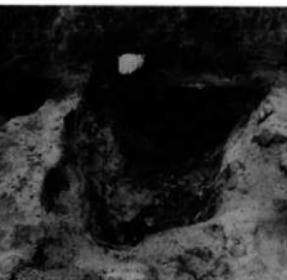
6. SK1221 土層(北から)



7. SE2222 完掘状況(北から)



1. SD1034 遺物出土状況(南から)



2. SD1034 土層(北から)



3. SK2001(SD1034) 完整状況(南から)



4. SK1246 遺物出土状況(南から)



5. SK1230 遺物出土状況(東から)



6. SK2216 土層・遺物出土状況(西から)



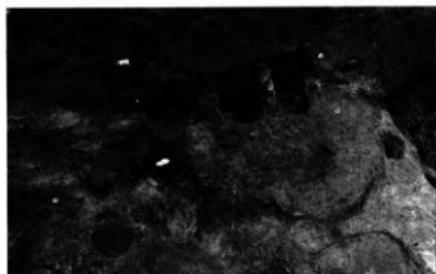
7. SX1280 西半骨片?他出土状況(南西から)→



9. SX2201・2202 整地面(東から)



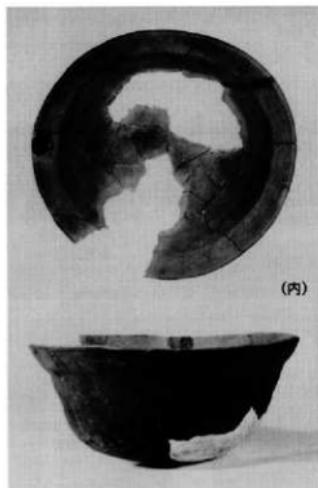
8. SX1280 全景(北東から)



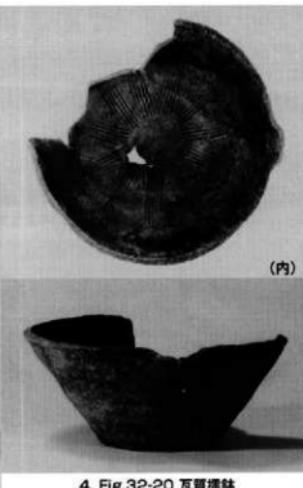
1. SX2201・2202 整地面(西から)



2. SX2201・2202 土層(西から)



3. Fig.30-6 土師器鍋



4. Fig.32-20 瓦質捏鉢



5. Fig.30-10 土師器環

6. Fig.31-18 土師器環

7. Fig.32-2 土師器環

8. Fig.37-48 土師器環



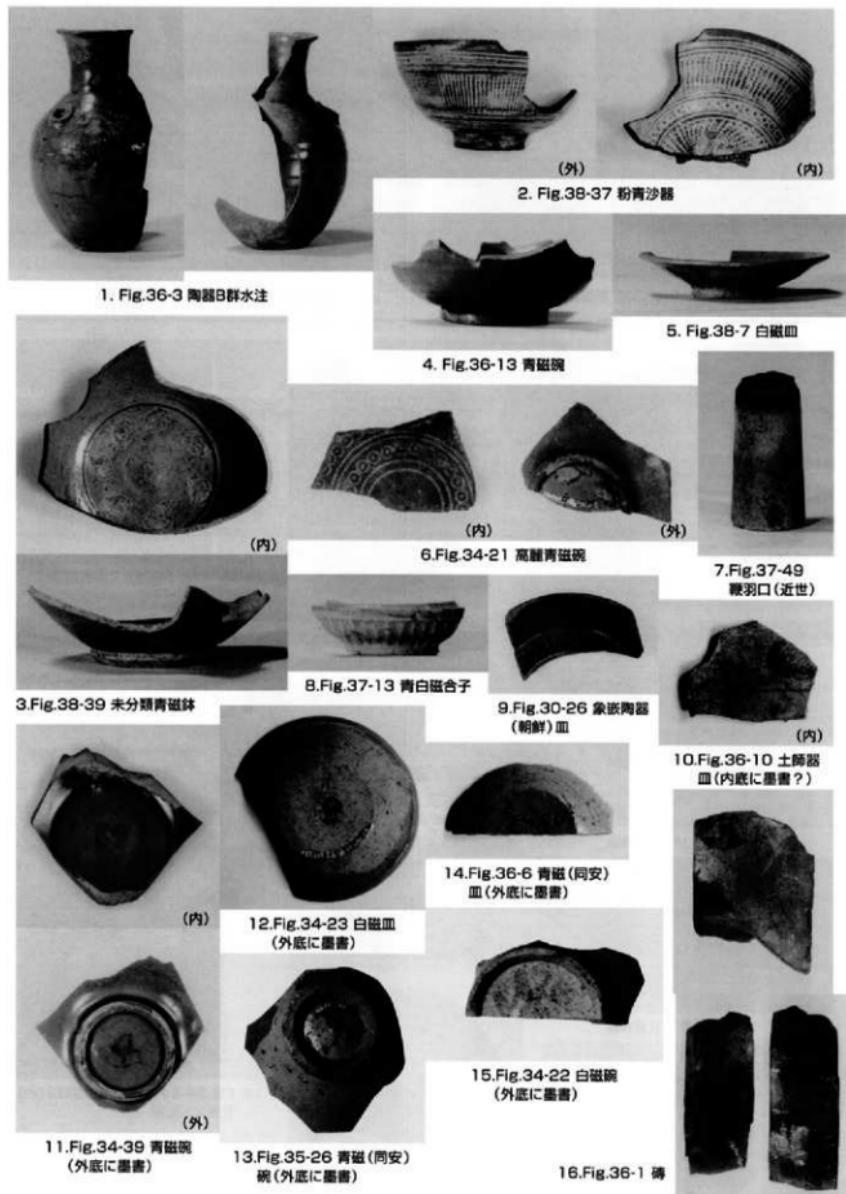
9. Fig.37-1 瓦質捏鉢

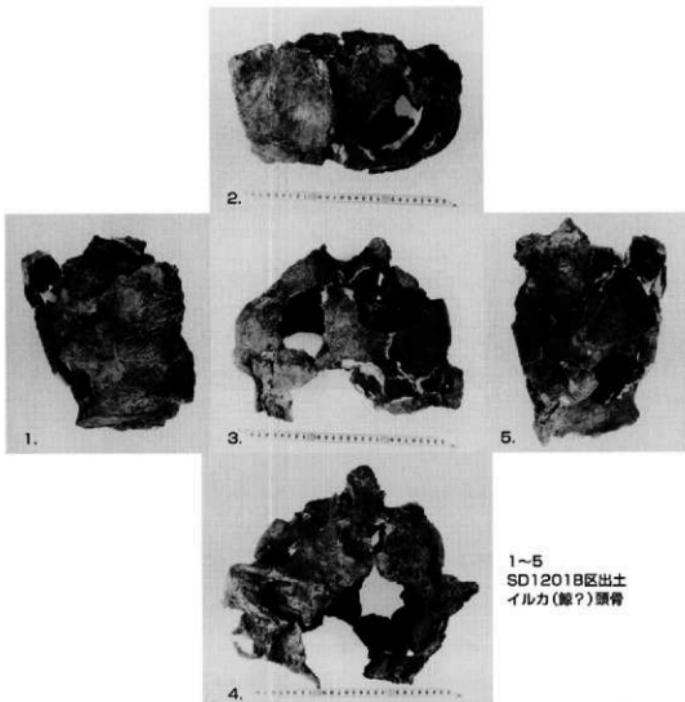


10. Fig.38-12 須恵質捏鉢

11. Fig.38-30 瓦質風炉

12. Fig.34-44(左)、Fig.35-32(右)  
瓦質足笠脚部





遺跡調査番号	0062	遺跡番号	HKT-129	分布地図番号	049-0121
調査地地籍	福岡市博多区古門戸町39・40番地			事前審査番号	12-2-526
開発面積	196.72 m <sup>2</sup>	調査面積	160.1 m <sup>2</sup>	調査期間	2001年2月1日～3月28日

## 博 多 90

### — 博多遺跡群第129次調査の概要 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第761集

2003年（平成15年）3月31日

発 行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印 刷 友盟社印刷有限会社

福岡市南区大楠1-26-20

